

平成30年度

新宿区協働事業評価報告書

(実施2・3年目)

(協働事業提案実施事業)

新宿区協働支援会議

# 「平成30年度 新宿区協働事業評価報告書」

## \*目次\*

	新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて・・・・・・・・・・	2
1	協働事業評価の概要・・・・・・・・・・	3
2	評価の目的・・・・・・・・・・	3
3	評価の手法・・・・・・・・・・	4
4	評価の対象・・・・・・・・・・	6
5	協働事業評価実施事業・・・・・・・・・・	7
6	協働事業の評価結果	
	（1）地域防災の担い手育成事業・・・・・・・・・・	9
	（2）地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト・・・・・・・・	14
	<b>【参考資料】</b> ・・・・・・・・・・	18
1	協働事業自己点検シート（様式）・・・・・・・・・・	19
2	協働事業相互検証シート（様式）・・・・・・・・・・	21
3	ヒアリング時提出資料	
	（1）地域防災の担い手育成事業・・・・・・・・・・	23
	（2）地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト・・	72

平成30年9月10日

新宿区長 吉住 健一 様

平成30年度実施の協働事業提案制度による協働事業について  
次のとおり評価しましたので、報告します。

新宿区協働支援会議 座長 久塚 純一

協働支援会議委員（協働事業評価）

	委員の区分	氏 名	職 名
1	学識経験者	座 長 久塚 純一	早稲田大学社会科学総合学院教授
2	非営利活動団体 構成員	座長代行 宇都木 法男	一般社団法人 ユニバーサル志縁社会創造センター 理事
3		関口 宏聡	認定特定非営利活動法人 シーズ・市民活動を支える制度を つくる会 代表理事
4	区 民	及川 由美子	公 募 区 民
5		土屋 慶子	公 募 区 民
6		石橋 明美	公 募 区 民
7	区内事業所の 社会貢献部門 経験者	伊藤 清和	元富士ゼロックス東京（株） CSR部社会貢献推進グループ
8	新宿区社会福祉 協議会職員	吉田 淳子	新宿区社会福祉協議会事務局次長
9	区 職 員	平井 光雄	総合政策部長
10		加賀美 秋彦	地域振興部長
11		松田 浩一	危機管理担当部長 （事業担当部長）
12		高橋 郁美	健康部長 （事業担当部長）

## 新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて

新宿区協働支援会議では平成18年3月に「協働事業提案制度の導入について」・「協働事業評価制度の導入について」の2つの報告書を取りまとめ、新宿区長に提出しました。協働事業提案制度は、この報告を受け、平成18年度から導入されたものです。

新宿区は、基本構想・総合計画でめざすまちの姿として『新宿力』で創造する、やさらぎとにぎわいのまち」を掲げ、5つの基本政策の一つとして、「暮らしやすさ1番の新宿」、また、その下の個別施策の一つとして、「地域の課題を共有し、ともに考え、地域の実情に合ったまちづくりの推進」を定めています。協働事業提案制度は、こうした基本政策等を達成するための具体的な取組みの一つであり、基本構想に掲げる「新宿力」を形づくる一つの手法として「地域の力」と「多様性」を活かす仕組みとなるものです。

協働事業が推進されることで、多様な主体が担い手となり地域を支える「よりよい地域社会」が形成されると考えます。また、区民が様々な分野で参画する地域社会づくりを進めていくためには、「NPO等と区が実施する協働事業によって地域社会にどのような変化が表れるのか」、「区民の生活の課題がどのように解決されていくのか」を区民に示していくことが必要です。さらに、事業の計画段階から効果測定に至るまで、それぞれのステージで客観的に評価を行い、事業実施に反映し、改善に繋げていくことが大切です。

評価については、平成24年度に委員の拡大や視察の導入等を行った他、平成29年度には評価項目と評価の着眼点を整理し、「計画」・「実施」・「結果」・「改善」の4つの大項目の下、評価を行うこととしました。

このような基本認識の下、事業実施3年目1事業と実施2年目1事業の2つの協働事業を対象に、評価を実施しました。

実施3年目の事業については、区と団体に加え、企業やNPO等も役割を担い、一丸となって事業を推進しています。多様な主体が各々の強みを活かしながら事業が展開されており、協働の効果を発揮しながら事業実施されています。

実施2年目の事業については、歌詞に新宿区らしさを盛り込む等、工夫に富んだ成果物が出来上がり、専門家や地域で活動する方々と共に、十分に検討を重ねながら普及啓発ツールづくりに取り組む様子が確認できました。区民への普及啓発に向けた今後の更なる活動に期待しています。

今後も、区民の参画や地域との連携の下、協働のまちづくりが促進され、地域課題の解決が図られることで、多様な人々にとって新宿区がさらに暮らしやすいまちとなることを期待します。

本報告書は、新宿区協働事業提案制度実施要綱第11条第2項に基づき、新宿区長に報告いたします。

新宿区協働支援会議  
座長 久塚 純一

## 1 協働事業評価の概要

新宿区では、各主管課において多様な主体と様々な協働事業が進められており、平成29年度の協働事業進捗調査では、264に及ぶ事業が様々な協働形態で行われています。その中で、協働事業提案制度により平成28年度から実施されている「地域防災の担い手育成事業」について3年目の評価を行い、平成29年度から実施されている「地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト」について2年目の評価を行いました。

事業の評価については、平成16年に策定した「地域との協働推進計画」が基本目標として掲げる「多様で新たな区民ニーズへの対応」や「区民の参画意識と主体的な区民活動の促進」、「行政の体質改善」に結びつく取組みになっているのか、また、「相互理解」、「自主・自立性」、「対等の関係」等、6つの「協働の基本原則」を十分踏まえ、事業の目標等が達成できたかといった点から評価を行いました。

協働の中身・質を高め、事業の目標や意図する成果を達成していくためには、協働の当事者が、互いにプロセスや成果を確かめ、議論し合い、相互検証を行うといった、一つひとつの経験を積み重ねていくことが大切です。そして、「計画」・「実施」・「結果」・「改善」といった各事業の場面における評価基準を定め、客観的にその取組みの評価を行い、実施の場面で改善に繋げていくことが必要です。

そのため、評価にあたっては、事業実施団体と区担当課が、協働事業の実施中に「協働事業自己点検シート」・「協働事業相互検証シート」を作成し、事業の振り返りのために自己点検及び相互検証を行いました。

これらの資料を基に、協働支援会議が事業実施団体と区担当課へのヒアリングを行い、第三者評価を実施しました。

事業の評価結果については、9頁以降に記載のとおりです。

## 2 評価の目的

協働事業の評価は、協働の意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的として行います。

〈協働の意義〉

- ① 区民生活にとって効果的な事業を実施すること
- ② 協働を進めるNPO等と区が相互理解を進め、対等な関係を築いていくこと
- ③ 区民の主体的な活動を推進しコミュニティの形成につなげていくこと
- ④ 前例の踏襲や組織の縦割りの弊害など、これまでの区の仕事の内容や進め方を見直す契機とすること
- ⑤ 様々な主体の自立性を高め役割分担を明確にしていくこと
- ⑥ 協働事業を発展させ、住民福祉の維持向上と住民自治を推進していくこと
- ⑦ 区民ニーズに基づく予算化の優先順位をつけるための判断基準の一つにすること

### 3 評価の手法

#### (1) 評価の流れ

事業実施団体と区担当課がそれぞれ「自己点検シート」の記入を行い、双方の協力の下、「相互検証シート」を作成します。また、評価時点までの事業の実施概要の提出を求めるほか、受益者からの評価はアンケート等で把握します。

さらに、区民に対する実施事業の事業報告会に協働支援会議委員も出席して、事業の進捗状況等について確認を行うほか、必要に応じて事業視察も実施します。

これらを評価資料として、協働支援会議が両者にヒアリングを行い、評価を実施します。

#### (2) 評価の項目

2・3年目の評価については、「計画」・「実施」・「結果」・「改善」の事業プロセスごとに評価を行うとともに、総合評価を実施します。事業プロセスごとの評価は、主に次の評価基準によって実施します。

#### (3) 評価の公開

評価結果については、ホームページ等により、広く区民等に公開し、事業の透明性を図り、更なる協働の推進に結びつけていきます。事業実施団体と区担当課は、評価の結果により、課題が明らかになった場合には、双方の活動や事業の実施に反映していくことが必要です。

協働事業の評価にあたっての主な着眼点（2年目以降用）

大項目	評価にあたっての主な着眼点
計 画	前年度の問題点や課題を翌年度の計画に反映しているか
	効果・成果の指標（効果を確認するための指標）の設定は適切か
実 施	年間スケジュールに沿った実施がなされたか （なされていない場合は、合理的な理由があるか）
	意見交換や情報共有は十分に図りながら実施されたか
	お互いの先駆性や専門性を活かした役割分担がなされたか
	協働の効果を発揮した事業実施がなされたか
結 果	効果・成果の指標は達成できたか （できていない場合は、合理的な理由があるか）
	アンケート等により受益者の意見集約はなされたか
	区民や地域社会への効果や成果が発揮できたか
	地域課題や社会的課題への効果や成果が発揮できたか
改 善	問題点や課題は適切に把握できているか
	受益者の意見の分析や把握はできているか
	課題に対する改善策の検討がされているか、適切な対策となっているか

◎評価指標

- ④優れている、③適切である、②課題はあるが、ほぼ適切である
- ①不十分であり改善が必要、○その他

#### 4 評価の対象

(1) 評価対象団体等

- ① 協働事業提案制度による事業実施団体(特定非営利活動法人、市民活動団体・ボランティア団体などの社会貢献活動団体。)
- ② 区の事業担当課

(2) 評価対象事業

協働事業提案制度による30年度実施の2事業

- ① 平成27年度に採択した実施3年目の1事業
- ② 平成28年度に採択した実施2年目の1事業

(3) 評価対象期間

平成29年4月～平成30年6月

(平成29年度実施結果、平成30年度事業計画・6月末までの実施状況)

(4) 評価の実施経過

平成30年 1月～3月	事業実施団体と区に自己点検・相互検証シート作成依頼 事業実施団体と区がそれぞれに自己点検を実施 事業実施団体と区が自己点検の結果をもとに意見交換し、相互検証を実施
5月22日	協働事業実施事業報告会(於:新宿区役所本庁舎) ○地域防災の担い手育成事業 ○地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト
5月28日	協働事業視察会(於:榎町地域センター) ○地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト「新宿ごっくん体操講習会」
6月28日	第5回協働支援会議 ◆ヒアリング 27年度採択1事業・28年度採択1事業
7月20日	第6回協働支援会議 ◆評価内容の調整・審議 ◆評価書作成
8月3日	第7回協働支援会議 ◆評価結果のまとめ



## 5 協働事業評価実施事業

### 【平成 27 年度に採択、実施 3 年目の事業】

事業名	地域防災の担い手育成事業	ヒアリング 実施日	平成 30 年 6 月 28 日
実施者	実施団体	一般社団法人 ピースポート災害ボランティアセンター	
	区担当課	危機管理担当部危機管理課	
概要 事業目的・	地域防災力の向上を図ることを目的として、楽しみながら防災について学ぶことのできる防災イベントと、地域防災の担い手育成プログラムをあわせて実施する。		
社会的課題 地域課題・	<p>区政モニターアンケートをみると、東日本大震災発生時に一時高まった防災意識は時間の経過とともに年々低下しており、また、地域での防災訓練等においても若者世代、子育て世代及び外国人等の参加等が低い状況にある。</p> <p>首都直下地震発生の切迫性が指摘されている中、発災時に大切な生命・財産を守るためには、幅広い年齢層及び外国人等への防災・減災意識の啓発及び災害時に率先して災害応急活動に取り組むことができる人材を育成することが必要となる。</p>		
目標・成果	<p>イベント参加者及びボランティア(地域防災・減災の担い手)の防災意識及び知識の向上により、自助共助による地域防災力の向上へとつなげる。イベントに関連する主に若者・現役世代のボランティア延べ 150 名以上の参加を目指す。</p> <p>特に、イベント等に中心的に関わる運営ボランティア約 20 名は、実践的な体験を含めた計 10 回程度の研修を受講することで、地域の防災減災担い手としての知識や経験を身に着けることができる。その他、「しんじゅく防災フェスタ 2018」実行委員会参加団体等が提案する防災・減災への取組みも研修に積極的に取り入れることで、より充実した研修プログラムを実施する。</p>		

上記記載内容は、契約書等ヒアリング資料をもとに作成

【平成 28 年度に採択、実施 2 年目の事業】

事業名	「地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト」	ヒアリング 実施日	平成 30 年 6 月 28 日
実施者	実施団体	特定非営利活動法人 メディカルケア協会	
	区担当課	健康部健康づくり課	
概要 事業目的・	<p>区民を中心とした多様な主体が担い手「ごっくんリーダー」として、能動的・継続的に参画することで、自分自身を含む高齢者の「食べる力の維持向上」、「高リスク者の早期発見、適切な支援」につなげていけるよう、基盤と支援体制を構築することを目的として、区民への普及啓発、担い手となる人材の育成、楽しく口腔機能を向上させるツールの開発・活用を実施する。</p>		
社会的課題 地域課題・	<p>肺炎は高齢者の死亡原因第 3 位で年々増加傾向にあり、その内の 7 割は飲みこみが原因による誤嚥性肺炎といわれている。また最期まで、口から安全に安心して食べるという楽しみは豊かに生きる力となる。そのため、当事者が正しい知識を身につけたり、周囲の人たちが異変に気づいたり適切な予防対策を講じられるように、一般区民に向けた効果的な普及啓発方法が課題となっている。</p> <p>こうした課題には、区や医療・介護サイドからの情報発信だけでは限界があるため、区民を中心とした多様な主体が普及啓発活動の担い手「ごっくんリーダー」として参画して、能動的・継続的に活動を広げていく必要がある。</p>		
目標・成果	<p>1 年目で開発した啓発活動ツールを有効に活用して、選定したモデル地域で区民への普及啓発とごっくんリーダーの育成を実施し、全区展開に向けてしっかりとした基盤づくり、環境整備、有効性の検証を行う。区民への普及啓発事業としてはイベントを実施し、ごっくんリーダーの育成は知識習得等を目的とした講習会や体操講習会を通じて行う。また、啓発活動を推進するためのツールづくりとして CD 等の作成に取り組む。</p>		

上記記載内容は、契約書等ヒアリング資料をもとに作成

## 6 協働事業の評価結果

### (1) 地域防災の担い手育成事業

#### ● 総合評価

B

- A 協働事業として優れている
- B 協働事業として適切である
- C 一部改善の必要があるが、おおむね適切である
- D 協働事業として改善が必要である
- E 協働事業としては不十分である

#### ・総合評価コメント

近い将来に発生が予想されている首都直下地震等の災害への対応は重要かつ急務である一方で、防災・減災意識の向上は容易ではなく、区民の防災意識の低下等が課題となっています。そうした中で、本事業は魅力的な企画で3,000人を超えるイベント来場者を達成し、参加者からも好評を得ており、着実に成果を挙げています。

事業の計画については、新宿区の特性を踏まえたうえで計画が立てられており、各年度毎にテーマを設定することで、3カ年の期間を有効に活用して、成果を挙げている点が評価できます。効果・成果を確認するための指標についても、改善を加えながら適切に設定されています。

事業の実施についても、年間スケジュールに沿って着実に実施されています。団体と区担当課の適切な役割分担と情報共有が行われている他、企業やNPO等が実行委員会のメンバーとして参加しており、多様な主体が各々の強みを活かしながら、効果的に事業が実施されているものと評価します。特に、在住外国人や災害時要配慮者等を交えて企画作りが行われており、当事者の意見を大切にしながら事業が進められているものと評価できます。

事業の結果については、計画時の参加者数の目標を上方修正したうえで、さらにその目標を達成しており、「楽しく学べる防災イベント」として多くの区民の参加を得られたものと評価できます。アンケート結果も良好で、区民の防災意識の向上という狙い通りの効果が生まれているものと評価します。また、本事業を通じて培われた各団体のネットワークや、地域の担い手育成の方向性と課題解決の糸口を見出すことができたことは、本事業の大きな成果です。今後は、本事業で育成したボランティアが地域で活動するためのフォローアップや、町会・自治会の避難所設営訓練との連携等、地域社会への広がりという点も検討して頂きたいと考えます。

事業の改善については、団体と区担当課で発生した課題を分析・共有し、把握した課題に対して柔軟かつ効果的な改善策が実施されていると、評価できます。

本事業がモデルとなり、他の自治体でも同様のイベントが開催されたり、本事業への参加をきっかけとして区内の関係団体のネットワークが深まる等、波及効果が広がっています。この事業が一過性のものでなく、事業を通して培った人と人の絆、ネットワー

クを大切にしながら更に発展し、今回の取り組みを契機に区民一人ひとりが防災への関心を高め、地域で防災活動に取り組む人材を育成し、地域防災力の向上・発展に寄与することを期待しています。

● 項目別評価

4 = 優れている 3 = 適切である 2 = 課題はあるがほぼ適切である

1 = 不十分であり改善が必要

大項目	評価にあたっての主な着眼点	個別評価	項目別評価
計 画	前年度の問題点や課題を翌年度の計画に反映しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	3
	効果・成果の指標（効果を確認するための指標）の設定は適切か	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
実 施	年間スケジュールに沿った実施がなされたか（なされていない場合は、合理的な理由があるか）	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	3
	意見交換や情報共有は十分に図りながら実施されたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	お互いの先駆性や専門性を活かした役割分担がなされたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	協働の効果を発揮した事業実施がなされたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
結 果	効果・成果の指標は達成できたか（できていない場合は、合理的な理由があるか）	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	3
	アンケート等により受益者の意見集約はなされたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	区民や地域社会への効果や成果が発揮できたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	地域課題や社会的課題への効果や成果が発揮できたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
改 善	問題点や課題は適切に把握できているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	3
	受益者の意見の分析や把握はできているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	課題に対する改善策の検討がされているか、適切な対策となっているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	

・項目別評価コメント

協働事業評価項目	
<p>計画 評価点 3</p>	<p>各年度毎のテーマを設定して事業実施されており、実施2年目である昨年度は、障害者等の要配慮者への支援のあり方や仕組みを検討し、各種防災・減災プログラムを実施しています。3カ年の期間を有効に活用して、課題解決に向けて様々な層を対象としたテーマを設定している点が評価できます。</p> <p>成果目標として、イベントへの参加者数やボランティアの従事者数を設定しており、客観的で達成度を把握できる目標を設定しているものと評価します。また、事業を実施する中でイベントの参加者数を上方修正する等、柔軟に目標を設定している点も評価できます。更に、この目標を上回る実績を挙げており、幅広い層の区民へ防災意識が浸透しつつあると評価します。</p> <p>若い世代・家族に防災意識が浸透していないことから取り組まれた本事業ですが、回を重ねて対象を広げ、工夫をしていくことで参加者も増加し、広く防災意識が浸透しています。</p> <p>また、前年度評価で課題とされた、この事業がどれほど地域防災力の向上に寄与しているかを確認するための指標の設定についても、アンケート項目の工夫や、回収率向上を図っており、これまでの指摘に柔軟に対応しています。</p> <p>3年目になりますので、今後の方向性についての検討も必要です。育成したボランティアのイベント以外の活動の場の提供や、イベントにより防災に関心を持った人達、防災意識が高まった人達への引き続きの支援について、今後の方向性が検討されることを期待しています。</p>
<p>実施 評価点 3</p>	<p>事業の実施については、イベント事業・担い手育成事業共に、年間スケジュールに沿って着実に実施することができています。</p> <p>団体と区担当課において、定期的な打合せとともに積極的に電話やメールも活用した情報共有が行われ、十分な意見交換を行いながら、順調に事業が実施されています。</p> <p>区担当課は事業の企画やネットワークの活用、スタッフとしてのイベント参加等、事業の成功に向けた積極的な姿勢が見られます。団体も、ボランティアの募集や育成等、事業者の持つ強みを活かしており、適切に役割を分担しながら事業を実施しています。さらに、各分野で専門性を持つ企業やNPO等が実行委員会のメンバーとして参加しており、多様な主体が各々の強みを活かしながら、役割を担っている点も評価できます。</p> <p>昨年度は要配慮者支援のテーマに沿って、福祉部門の関係者や障害者、支援団体による分科会を設置しており、活動の輪と参加団体の広がりにより、協働の効果を発揮した事業となっています。</p> <p>今後も適切な役割分担の下、情報共有に努め、多様な主体との連携の中で、それぞれの強みを活かした事業の実施により防災対策が区民生活に定着することを期待しています。</p>

<p><b>結果</b> 評価点 3</p>	<p>イベントの参加者数は、前年度実績を踏まえて計画時の目標を上方修正していますが、更にその目標を上回る参加者数となっており、多くの区民に対して防災意識を高めるきっかけづくりができていたものと評価します。</p> <p>受益者の意見集約については、前年度評価を踏まえて、回答者への飲料の提供により、イベントでのアンケート回収数を大幅に増やし、多くの区民ニーズを事業に反映させることができたものと評価します。</p> <p>アンケート結果でも9割の方が「参考になった」と回答しており、区民の防災意識の向上が図られる等、狙い通りの効果が生まれていると評価します。また、本事業を通じて培われた参加団体同士のネットワークは、発災時に非常に有効なものになると考えます。</p> <p>今後は、育成したボランティアのフォローアップや、町会・防災区民組織との連携等による地域への還元、地域社会への広がりという点も検討しながら実施することが必要です。本事業をきっかけとして、防災に対する区民の関心や意識の向上が「日常の取り組み」として定着し、区民や地域社会への更なる波及効果に繋がることを期待しています。</p>
<p><b>改善</b> 評価点 3</p>	<p>事業実施に伴い発生した課題については、団体と区担当課で分析・共有され、適切に把握できています。土日に就労している外国人や一人で外出が困難な方への対応の検討や、実行委員会参加団体が当日にイベントに参加できない点等、イベントに参加できない方への対応や参加団体の声をくみ取る努力がされており、把握した課題に対しても柔軟かつ効果的に改善策が検討されていると、評価できます。</p> <p>定期的な意見交換に加え、イベント実施後速やかに振り返りを行い、課題や問題点の把握を行うことで翌年度の計画に反映させている点も評価できます。</p> <p>実施3年目となり、協働事業としての実施期間終了後の展開も課題となります。これまでの指摘事項への速やかな対応や自己財源の確保や協賛者・出展者の獲得、区内各団体の巻き込みなど、様々な努力がみられますが、引き続き協働事業の期間終了後の展開を見据えた課題の把握に努めて頂き、団体と区担当課で解決策を協議し、より有効な事業展開がされていくことを期待します。</p>

(2) 地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト

● 総合評価

C

- A 協働事業として優れている
- B 協働事業として適切である
- C 一部改善の必要があるが、おおむね適切である
- D 協働事業として改善が必要である
- E 協働事業としては不十分である

・総合評価コメント

加齢とともに衰えがちな一方、人間が生きる上で欠かすことのできない「食べる力」の維持・向上に着目した本事業は、高齢者のQOLや健康寿命の向上にも貢献する重要な事業となっています。

事業の計画については、普及啓発イベントの開催回数等、明確な目標をたてて事業が実施されています。また、前年度評価で課題とされた、事業効果を確認するための指標については、アウトカム指標を設定するなど、課題に柔軟に対応しています。

前年度の評価時点では、計画したスケジュールの遅れがみられましたが、団体と区担当課双方の努力によって現在は、計画どおりの内容が実施できています。普及ツールである「ごっくん体操」は、新宿区らしい歌詞を盛り込む等、工夫を図りながら作成されており、評価できます。団体の有する専門性や人的ネットワークが発揮され、専門家や地域で活動する方々を巻き込み、十分に検討を重ねながら普及ツールの作成に取り組んだ結果、体操普及・指導等の依頼が多く寄せられ、DVDの配布も順調に進んでいる等、成果を挙げつつあると評価します。CD化も検討される等、普及啓発に向けて団体と区担当課の積極的な姿勢がみられます。

事業の結果については、当初設定された目標を大きく上回る成果が得られているものもあり、評価できます。地域の施設を利用して活動している既存のグループとの連携を図り、「ごっくん体操」を日常の活動や地域行事に取り入れていく働き掛けをすることで、イベントの参加者数も多く、アンケート結果の満足度も高いものとなっています。

団体と区担当課が密にコミュニケーションをとり、課題の共有や解決に向けた話し合いが行われています。把握した課題に対しても、その都度柔軟に解決策を検討する姿勢がみられ、評価できます。

今後は、完成した普及ツールを活用したリーダーの育成・定着・拡大等の段階となります。地域人材の発掘やノウハウの継承が重要であるため、モデル地区から全区的にどう展開していくのかという点や、育成した「ごっくんリーダー」のフォローアップの方策について、具体的な検討が必要です。

本事業が一過性のものとして終わらないよう、ヒアリングでの指摘等も踏まえ、団体・区担当課ともに一層の工夫と取り組みに期待します。



● 項目別評価

4 = 優れている 3 = 適切である 2 = 課題はあるがほぼ適切である

1 = 不十分であり改善が必要

大項目	評価にあたっての主な着眼点	個別評価	項目別評価
計 画	前年度の問題点や課題を翌年度の計画に反映しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	3
	効果・成果の指標（効果を確認するための指標）の設定は適切か	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
実 施	年間スケジュールに沿った実施がなされたか（なされていない場合は、合理的な理由があるか）	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	3
	意見交換や情報共有は十分に図りながら実施されたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	お互いの先駆性や専門性を活かした役割分担がなされたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	協働の効果を発揮した事業実施がなされたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
結 果	効果・成果の指標は達成できたか（できていない場合は、合理的な理由があるか）	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	2
	アンケート等により受益者の意見集約はなされたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	区民や地域社会への効果や成果が発揮できたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	地域課題や社会的課題への効果や成果が発揮できたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
改 善	問題点や課題は適切に把握できているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	2
	受益者の意見の分析や把握はできているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	課題に対する改善策の検討がされているか、適切な対策となっているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	

・項目別評価コメント

協働事業評価項目	
計画 評価点 3	<p>成果目標として、リーダーの育成数や普及啓発イベントの開催回数、DVDの制作やその作成枚数等を設定しており、明確な目標をたてて事業実施がなされています。</p> <p>また、前年度評価で課題とされた、事業効果を確認するための指標については、事業参加者への満足度調査やイベント実施後の追跡調査により、嚙下機能への意識変化や口腔機能の改善状況の確認を行う等、アウトカム指標の設定が行われており、課題に柔軟に対応しながら事業実施されています。</p> <p>本事業は地域の核となる人材「リーダー」を育成し、高リスク者の発見や周囲の気づきにつながる知識、予防策等を普及啓発していくことを目指しています。この点を踏まえ、今後の事業計画においては、育成の進むごっこんリーダーの地域での活動状況や、完成したDVDの活用方法等をより具体的に計画づくりが必要と考えます。</p>
実施 評価点 3	<p>前年度評価時点では、計画したスケジュールに対して進捗の遅れがみられましたが、進捗の見直しと、団体と区担当課双方の努力により遅れを取り戻し、計画通りの内容が実施できています。</p> <p>意見交換や情報共有については、プロジェクト推進会議や定期的な打ち合わせ、電話等によるコミュニケーションが図られており、対等な立場で意見交換に努めていると考えます。お互いの得意分野や不得意分野も話し合う等、情報の共有に努めていると評価します。</p> <p>また、事業の実施においては、適切な役割分担の下、区担当課のネットワークや団体の人脈を活かし、医療機関等の関連各機関との協力を得る等、互いの強みを活かした事業の実施がなされています。成果物であるごっこん体操のDVDの作成は、作成スケジュールに遅れが生じたものの、専門家や地域で活動する方々等多くの人達が携わり、完成度の高いものとなっています。多くの関係者と協働の効果を発揮しながら事業が実施されているものと評価します。</p> <p>CD化も検討される等、事業実施におけるツールづくりが進んでいますが、今後はそれらをどのように活用してリーダーの育成と普及啓発活動を進めていくのか、具体的な方策の検討が必要です。引き続き、計画に沿った進捗管理の下、目標に対する成果を意識した、具体的なアプローチがなされることを期待します。</p>

<p><b>結果</b> 評価点 2</p>	<p>当初設定された指標については達成されており、イベントの参加者数等の一部指標については、目標を大きく上回る成果が得られている点は評価できます。</p> <p>作成したDVDは、親しみやすい区内の地名や旧跡を歌詞に取り入れ、歌いやすく受け入れやすいものとするなど、団体と区担当課双方の創意工夫がみられる完成度の高い内容となっています。受益者となる高齢者に丁寧にヒアリングしながら歌詞や動作を作成しており、受益者の意見を大切にしながら作成されています。</p> <p>イベントの満足度や口腔機能の意識調査等、幅広い設問に基づくアンケートや、イベント実施後の追跡調査を実施しており、丁寧な意見集約を行っているものと評価します。</p> <p>地域の施設を利用して活動している既存のグループとの連携を図り、「ごっくん体操」を日常の活動や地域行事に取り入れていく働き掛けをしていることで、イベントの参加者数が多く、アンケート結果の満足度も高いものとなっています。体操の普及や指導の依頼も多く寄せられ、DVDも配布が進んでおり、成果を挙げつつあると評価します。</p> <p>今後は、完成したDVDの活用方法や、モデル地域以外への展開、育成した「ごっくんリーダー」が地域で活動し続けるためのサポートについて十分な検討が必要です。</p>
<p><b>改善</b> 評価点 2</p>	<p>課題の共有や解決に向けた話し合いを行いながら実施されています。ごっくん体操の普及において、DVDの作成のみに留まらず、より効果的に事業を実施するために、CD化を検討する等、活動の中で捉えた課題に対して、その都度柔軟に改善策を検討する姿勢がみられます。</p> <p>今後は、モデル地域からの展開方法や、育成した「ごっくんリーダー」の自主的な活動のサポート方法等、活動の全区的な展開を実現するための具体的な方策の検討が必要です。普及に向けたツールは完成したので、それを活用し、どのように広げ定着させていくのが課題です。団体の強みを活かして、活動の場や対象者が拡大する等の取り組みを期待します。</p> <p>また、実施2年目ということで、事業の折り返し地点となりますので、協働事業としての実施期間が終了した後の展開も考慮しながら、引き続き受益者の意見の分析と、課題の解決への取り組みを期待しています。既存の高齢者の健康づくり施策の中でどのように位置づけて進めていくのか、具体的な検討が必要です。</p>

## 【参考資料】

協働事業自己点検シート（様式） P 19

協働事業相互検証シート（様式） P 21

### ヒアリング時提出資料

地域防災の担い手育成事業 P 23

地域の担い手「ごっくんリーダー」による

「食べる力」推進プロジェクト P 72



# 《協働事業自己点検シート》 2年目以降用

記入日	記入者	記入責任者
	※どちらかをチェックしてください 団体 <input type="checkbox"/> 区担当課 <input type="checkbox"/>	氏 名： 連絡先：

事業名		
事業の実施者	団 体	
	区担当課	

**\* 事業の取組みを4段階で評価してください。**

4 = 目標を越えて達成できた（十分に達成できた）    3 = 達成できた  
 2 = 一部課題はあるが、概ね達成できた    1 = 不十分であり、課題が残った

## I 協働事業の実施

(1) 事業の取組状況を評価してください。

項 目		評 価			
Q1	年間スケジュールに沿った実施がなされたか。	4	3	2	1
Q2	お互いに対等な立場で意見交換を行い、情報共有を図れたか。	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由を記入してください。課題があった場合や達成できなかった場合の理由、当初の計画を超えた成果があった場合は、その内容を記入してください。					

(2) 協働の効果を評価してください。

項 目		評 価			
Q3	お互いの先駆性や専門性を活かした役割分担がなされたか。	4	3	2	1
Q4	協働の効果を発揮した事業実施がなされたか。	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由を記入してください。課題があった場合や達成できなかった場合の理由、当初の計画を超えた成果があった場合は、その内容を記入してください。					

## II 協働事業の結果

現段階における結果（見込み）を評価してください。

項 目		評 価			
Q5	効果・成果の指標（効果を確認するための指標）は達成可能か。	4	3	2	1
Q6	アンケート等により受益者の意見集約に努めたか。	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由を記入してください。課題があった場合や達成できなかった場合の理由、当初の計画を超えた成果があった場合は、その内容を記入してください。					

## III 協働事業の効果・成果

提案時に「期待される成果」としていた事項を評価してください。

項 目		評 価			
Q7	区民や地域社会へ効果や成果が発揮できたか。	4	3	2	1
Q8	地域課題や社会的課題へ効果や成果が発揮できたか。	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由を記入してください。課題があった場合や達成できなかった場合の理由、当初の計画を超えた成果があった場合は、その内容を記入してください。					

# 《協働事業相互検証シート》 2年目以降用

事業名		
記入日		年 月 日
記入者	団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体名：</li> <li>・ 記入責任者 氏 名：</li> <li>連絡先：</li> </ul>
	区担当課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部署名：</li> <li>・ 記入責任者 氏 名：</li> <li>連絡先：</li> </ul>

## I 課題や受益者の意見の把握

事業実施にあたって、どのような問題点や課題がありましたか。

受益者からどのような意見がありましたか、要因はどのように考えていますか。

## II 課題の分析

上記 I で課題として挙げていた事項（受益者からの意見の中で課題として捉えているものも含む）の要因をどのように分析していますか。

## III 改善策の検討

上記 I・II を踏まえて、改善の方向性や改善策を記載してください。

●自由意見



ヒアリング時提出資料(平成30年6月28日実施)  
【地域防災の担い手育成事業】

H29年度新宿区協働事業年間スケジュール

資料1

2019/5/29

作成:PBV

	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
事務局(PBV)	施設利用申請 要配慮者 個別相談	助成金・協賛金 2017HPアップ	協働事業契約書等 2017HPアップ	2016年度報告会 運営ボラ説明会	広報協力打診 運営ボラ研修 異機材レンタル業者選定	当日イベント作成開始 各プログラム確認	利用施設最終確認 備品消耗品等発注 当日人員調整	直前準備	アンケート集計 イベント清算	運営ボラ研修 個別振り返り	次年度検討 担い手育成最終
危機管理課	要配慮者 福祉部調整		協働事業契約書等	2016年度報告会	ボラ勉強会(区の防災)	教育委員会協力依頼 防災関係機関調整	広報雑誌・チラシ配布等 広報紙(動・静)調整 防災関係機関調整	直前準備	子どもアンケート集計 避難所防災訓練	避難所防災訓練	次年度検討
実行委員会	3/28(火) 準備会 2016まとめ 2017呼びかけ	4/25(火)1300-1500 第11回実行委員会	4/25(火)1300-1500 第11回実行委員会	5/23(火)1300-1500 第2回実行委員会	6/27(火)1300-1500 第3回実行委員会	7/25(火)1300-1500 第4回実行委員会	8/20(日)1400-1600 第5回実行委員会	9/2(土)1330-1500 第6回実行委員会	9/28(火) 1600-1800 振り返り会		
要配慮者	第1回意見交換		4/11(火)1500-1700 第2回意見交換	5/9(火)1500-1700 第3回意見交換	6/16(金)1330-1530 第4回意見交換	7/12(水)1400-1600 第5回意見交換	8/20(日) 実行委員会任意参加	9/2 本番		個別振り返り	12/22(金) 第6回意見交換
協力・協賛 団体		実行委員会参加希望の確認			協力内容別に準備 協賛のお願い	直前確認	直前確認				
ブース					募集要項発表 保健所相談開始	7月中旬由☆メ 追加募集検討	8/20(日) 出展者向け説明会				
広報	Let's協働!! 新ロゴ・イラスト	2017ウェブ公開 Facebook開始	運営ボラ用簡易チラシ	英語(簡易情報)公開	当日ボラ募集チラシ 各団体からの広報	最終チラシ (チラシ翻訳依頼) マスコミリリース①	8/6(日)プレイベント 広報紙(みじく) マスコミリリース②		アンケート集計		終了報告 記録写真映像回収

■ボランテニア、担い手育成

	前年度登録者 呼びかけ	運営ボラ募集開始 (6月まで)	運営ボラ募集開始 (7月まで)	当日ボラ募集開始 (8月まで)	追加募集検討	プースボラ 特殊技能ボラ募集 (個別募集)	ボラリー ターOUT ※災害 VC設置 訓練あり	前日 本番	10/28-11/11 避難所防災訓練に参加	12/10 最終まとめ アクションプラン
運営ボラ 募集		運営ボラ募集開始 (6月まで)	語学ボラ募集開始 (7月まで)	当日ボラ募集開始 (8月まで)	追加募集検討	プースボラ 特殊技能ボラ募集 (個別募集)	ボラリー ターOUT ※災害 VC設置 訓練あり		アンケート集計	
運営ボラ 説明会		各団体から募集開始 ウェブサイトに募集開始	運営ボラ説明会 9/14(日)1000/1300 9/21(日)1000/1300	運営ボラ説明会 6/4(日)1000/1300	7/1(土)終日 ボラ入門 7/23(日)終日 障がい対応・街歩き	8/6(日)1400-1800 教師講習+プレイベント 8/23:カエル模範練習	ボラリー ターOUT ※災害 VC設置 訓練あり		10/28-11/11 避難所防災訓練に参加	
研修 勉強会				6/18(日)PM わが家WS:区の体制 自己紹介・目標設定	7/1(土)終日 ボラ入門 7/23(日)終日 障がい対応・街歩き	8/20(日) 拡大実行委員会参加				
運営ボラ ミーティング				6/18(日)PM 自己紹介・目標設定	7/1(土)懇親会 7/23(日)プレイベント 準備	8/20(日) 拡大実行委員会参加				
語学ボラ					7/23(日)終日 オリエン&研修 ※翻訳協力等	8/20(日) 拡大実行委員会参加				
当日ボラ					7/15(土)7/30(日) 当日ボラ説明会	8/6(日)イベント後準備 当日ボラ説明会				
プースボラ					プース出展呼びかけ	8/20(日) プース出展者説明会				
カエルボラ (YMCA)			プースアーツ打ち合わせ			ボラ募集	8/23模範訓練 直前準備			
TOMODACHI					参加者募集	トレーニン グ カリキュラムづくり	9/2-3 災害復興リーダーシップ トレーニン グ			11/25-27 世界防災フォーラム 防災団体@仙台

## しんじゅく防災フェスタ 2017 実績

- 1 日時 平成 29 年 9 月 3 日（日）11:00～16:00
- 2 場所 都立戸山公園、新宿スポーツセンター
- 3 目的 新宿区民および区内在勤・在学者が集い、楽しく学べる防災イベントの実施  
地域防災・減災の担い手育成
- 4 対象 新宿区、在住・在勤・在学者など一般募集  
※H28 年度に引き続き親子・若者・外国人、加えて障がい者等要配慮者の参加を促す。
- 5 来場者数 3,200 名以上（各プログラムの参加人数は別紙参照）
- 6 主催 しんじゅく防災フェスタ 2017 実行委員会
- 7 HP・SNS 公式ホームページ：<http://bosai-festa.com/>  
公式 Facebook：<https://www.facebook.com/shinjukubosai festa2016/>  
公式 Instagram <https://www.instagram.com/shinjukubosai festa/>  
※※その他、チラシ、ポスター、当日プログラムなどを作成（全体約 3 万部）
- 8 関係団体（法人格等は省略）
- 実行委員会 新宿区危機管理担当部危機管理課（所管課）、ピースボート災害ボランティアセンター（事務局）、新宿区社会福祉協議会、新宿区立障害者福祉センター、東京都公園協会、難民支援協会、東京 YMCA、東京土建チーム NAMAZU、東京都助産師会新宿中野杉並地区分会、日本防災推進機構、新宿 CSR ネットワーク
- 協 力 新宿区町会連合会（広報）、新宿消防署（企画・広報）、新宿区教育委員会（広報）、プラスアーツ（企画）、目白大学社会学部メディア表現学科（広報）、TOMDOACHI イニシアチブ（企画）、みやぎセルフ協働受注センター（企画）、日本ケアフィット共育機構（企画・ボランティア）、永徳堂（企画・ボランティア）
- 協 賛 ウェスレー財団（助成金）、防災・減災日本 CSO ネットワーク（助成金）、TOMODACHI イニシアチブ／プルデンシャル財団（協賛）、パルシステム東京（協賛）、パルシステム連合会（協賛）、ゆめ風基金（助成金）、伊藤園（物品）、スターバックスコーヒー（物品）、IP-Net／モバイルクリエイト（物品）、ロッテ（物品）、ハレルヤワークス（物品）
- ブース出展 東京ガス中央支店、東京電力パワーグリッド東京総支社、NTT 東日本、新宿警察署、陸上自衛隊第 1 普通科連隊、新宿区防災都市づくり課、日本気象協会、東京都公園協会戸山公園サービスセンター、新宿区防災サポーター、東京都葛飾福祉工場、新宿区保健所衛生課、ローシケバブ、アンタルキッチン、nico.niko.cafe、Smokin' Bluemoon、伊藤園新宿支店、難民支援協会、アトピッ子地球の子ネットワーク、ご近所 SNS マチマチ、新宿 CSR ネットワーク、パルシステム東京、東京土建新宿支部／チーム NAMAZU、東京都助産師会新宿中野杉並地区分会、新宿区立障害者福祉センター、みやぎセルフ協働受注センター、ニッケン興業、TBS ラジオ リフレッシュキャンペーン
- 9 メディア掲載
- 8/12 インターネット番組「ふらっと Bosai」／8/23～9/2 TBS ラジオ CM／8/31 朝日新聞夕刊（東京版）
- 9/1 NHK ラジオ第 1 ごごラジ／9/10 NHK 国際放送局 ラジオ日本スワヒリ語（東アフリカ諸国でも放送）
- 9/24 NHK ラジオ第 2 「視覚障害 ナビ・ラジオ」／10/8 点字毎日
- 高校生用映像教材「これから始める高校生のボランティア活動」（日本コロムビア株式会社、株式会社ゴッチ）

しんじゆく防災フェスタ2017 各プログラム参加人数一覧

資料 3

2017年9月15日作成  
作成:PBV

※総来場者数は、3,200名以上(プログラム配布数:2,400枚/小学生:700、小学生未満:100)。

場所	やぐらステージ	人数	やぐら広場	人数	やぐら周辺	人数	芝生・休憩ゾーン	人数	つどい	人数	スポーツセンター				人数	ロビー(1F、2F)	人数		
											大会講室(2F)	人数	小会議室(2F)	人数				幼児体育室(1F)	人数
テーマ	ハフオーマンス	420	防災体験・訓練	1,750	車両展示・体験	480	14テント	-	災害VC訓練	90	救命講習・予備	40	セミナー・WS	170	本部&休憩	-	展示、その他	540	
担当	アレルック事務局 司芸:早稲田POST プログラム:各ゲスト	420	東京YMCA/TOMODACHI 危機管理課 新宿消防	1,750	危機管理課 新宿消防 自衛隊	480	各出展者 事務局・協力団体	-	新宿社協	90	新宿消防 永徳堂	40	防災都市・衛生課 PBV、難民支援協会	170	事務局、運営ボラ	-	耐震ベッド、TBSラジオ みやぎセルブ展示、販売 アンケート&スタバ	540	
準備・設営																			
1100	オープニング (戸塚一小、区長挨拶)	150	カエルキャラバン ×5種目 1100-1530	1,750	起震車 1100-1600	360	ブースオープン 飲食×7 防災×8 ※各防災ブース 200-300名来訪 1100-1600	-	災害VC訓練 1200-1400	90	救命入門(英語) 1030-1130	30	アニメ上映+WS 1100-1300	80	本部 & ボラオリエン 900-1700	-	みやぎセルブ展示 1100-1600	-	
1200	プースPR 1145-1215	-	-	-	ハンゴ車 1100-1600	120 (56組)	-	-	-	-	わが家WS(中国語) 1300-1500	10	やさしい日本語防災 1300-1500	10	-	TBSラジオ 1100-1530	70	-	
1300	おたまた劇場① 1230-1300	40	区関係機関 防災体験コーナー 1100-1600	-	消防広報車 救急車	-	-	-	-	-	予備スペース (オリエン等)	-	視覚障がい者わが家 1300-1500	40	個人荷物置き場 ボラ体験 1000-1700	-	耐震ベッド 1100-1600	-	
1400	防災クイズ 1315-1345	50	-	-	軽装甲機動車 1100-1600	-	-	-	-	-	-	ペット防災セミナー 1500-1600	40	-	-	アンケート回収 1100-1600	470	-	
1400	てあわせのぼら 1400-1430	30	消防・煙ハウス 応急救護 放水体験 1100-1600	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1500	おたまた劇場② 1445-1515	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1600	かえっこオーケジョン 1530-1600	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1700	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

片付け・撤収

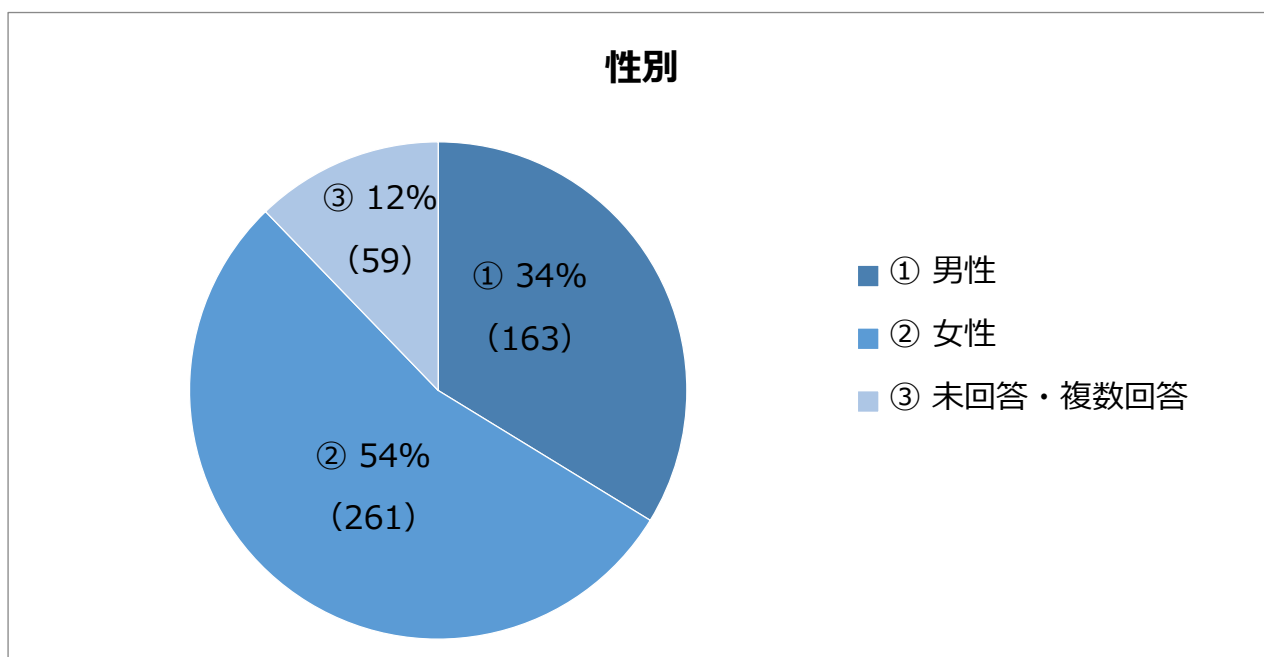
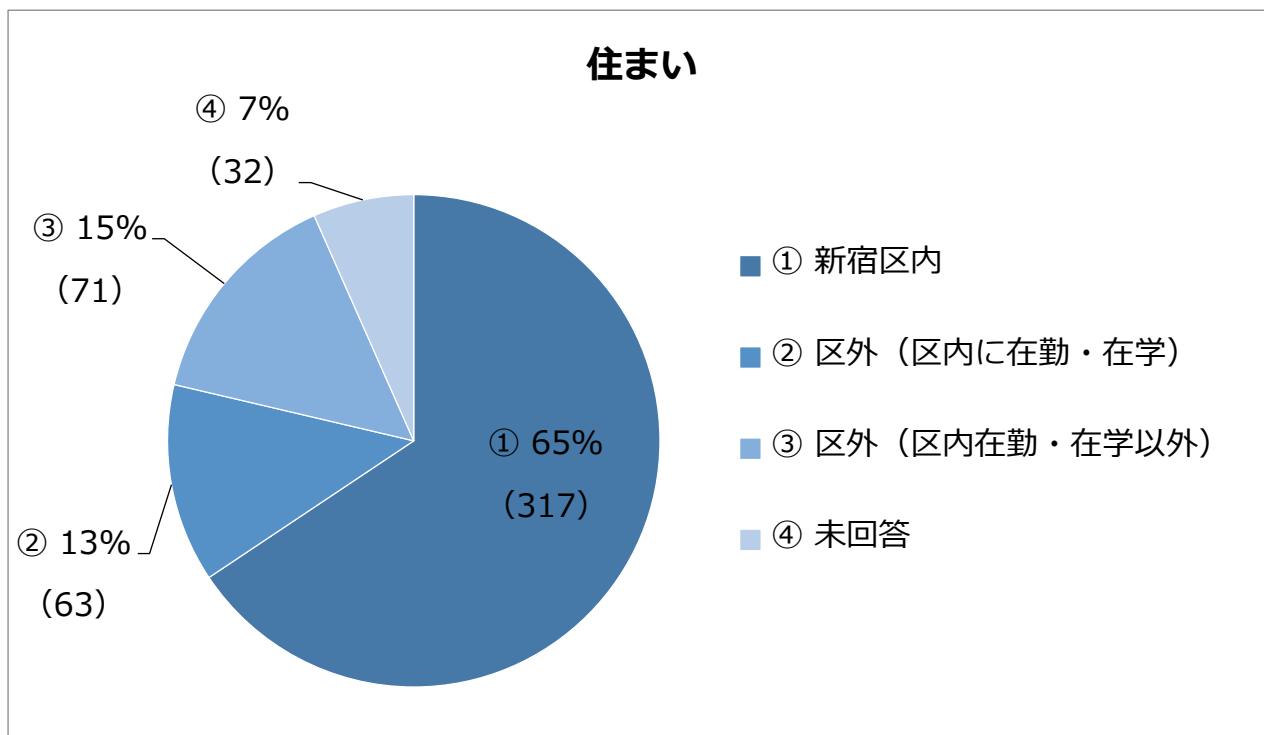
## しんじゅく防災フェスタ 2017 来場者アンケート (抜粋)

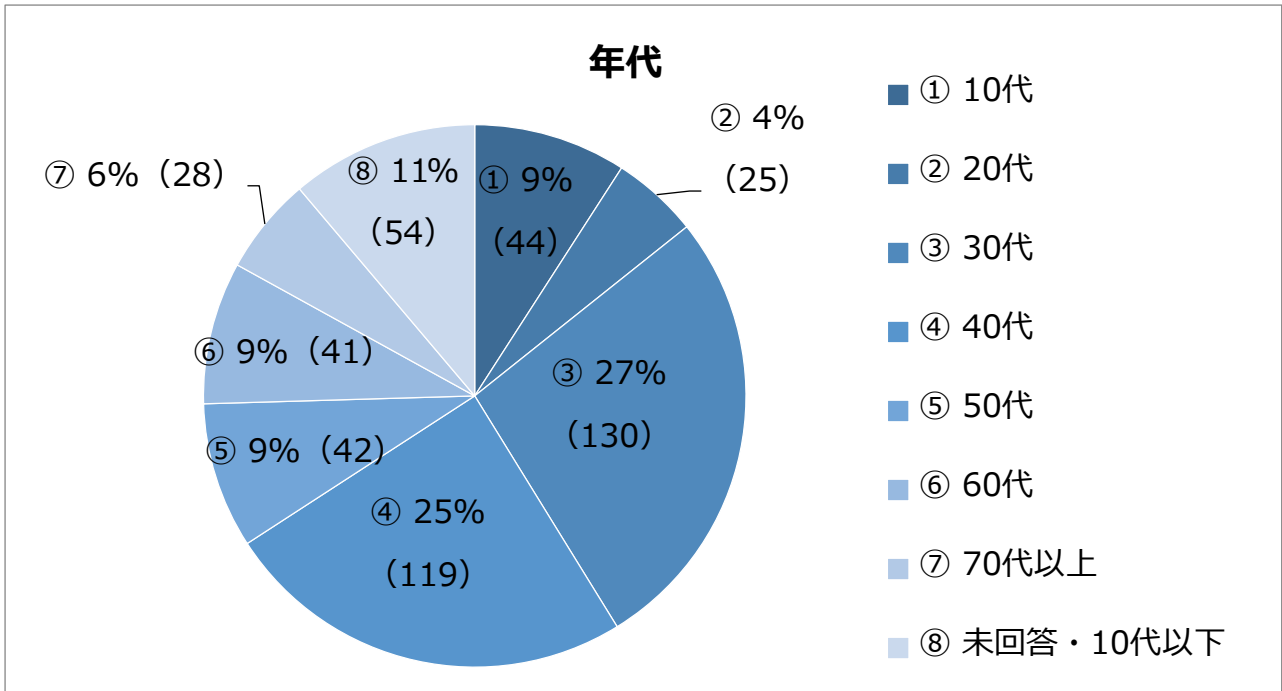
アンケート実施日：2017年9月3日(日)

回答者数：483名 ※この他、子ども向けアンケートも実施

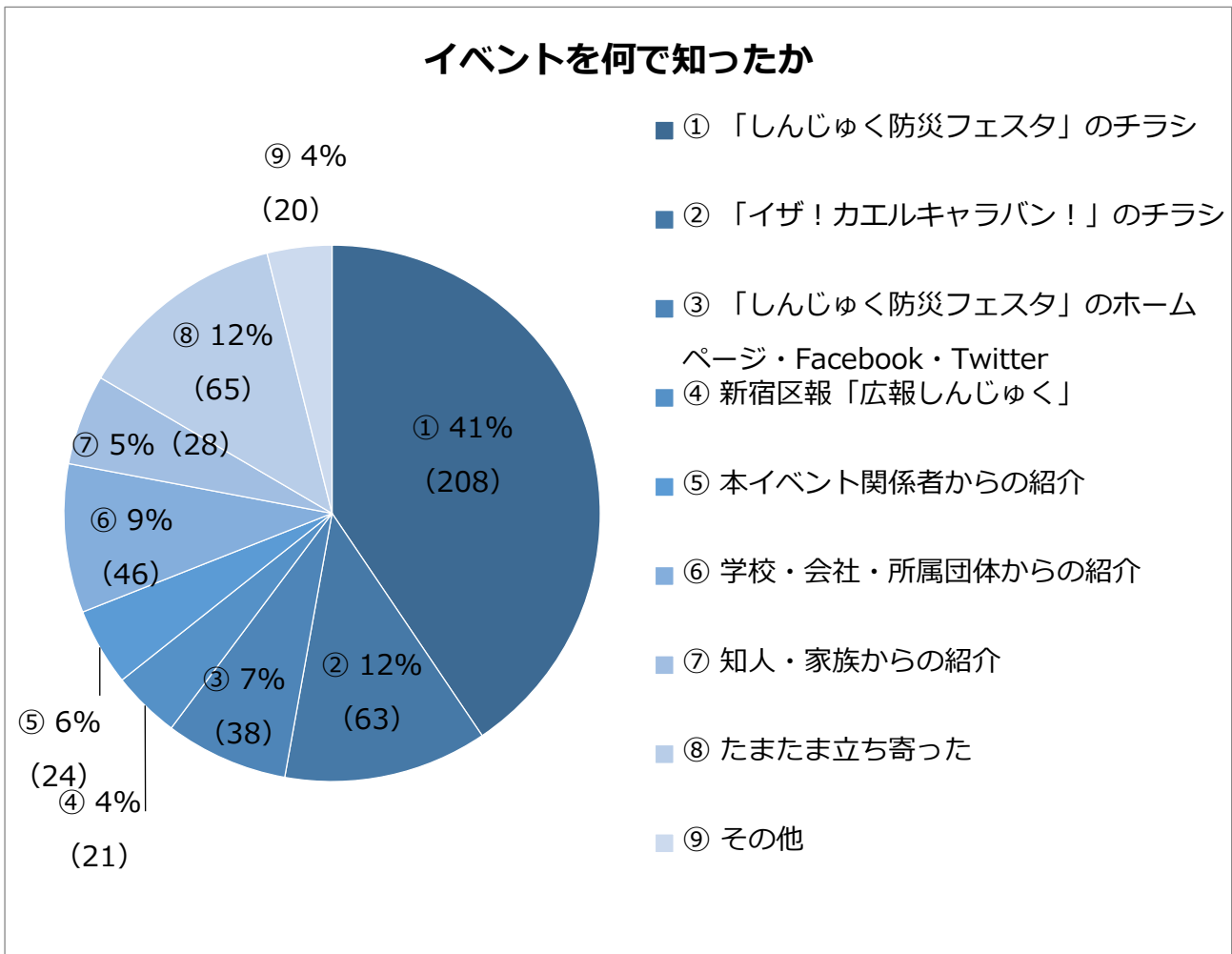
## 1. 回答者の属性

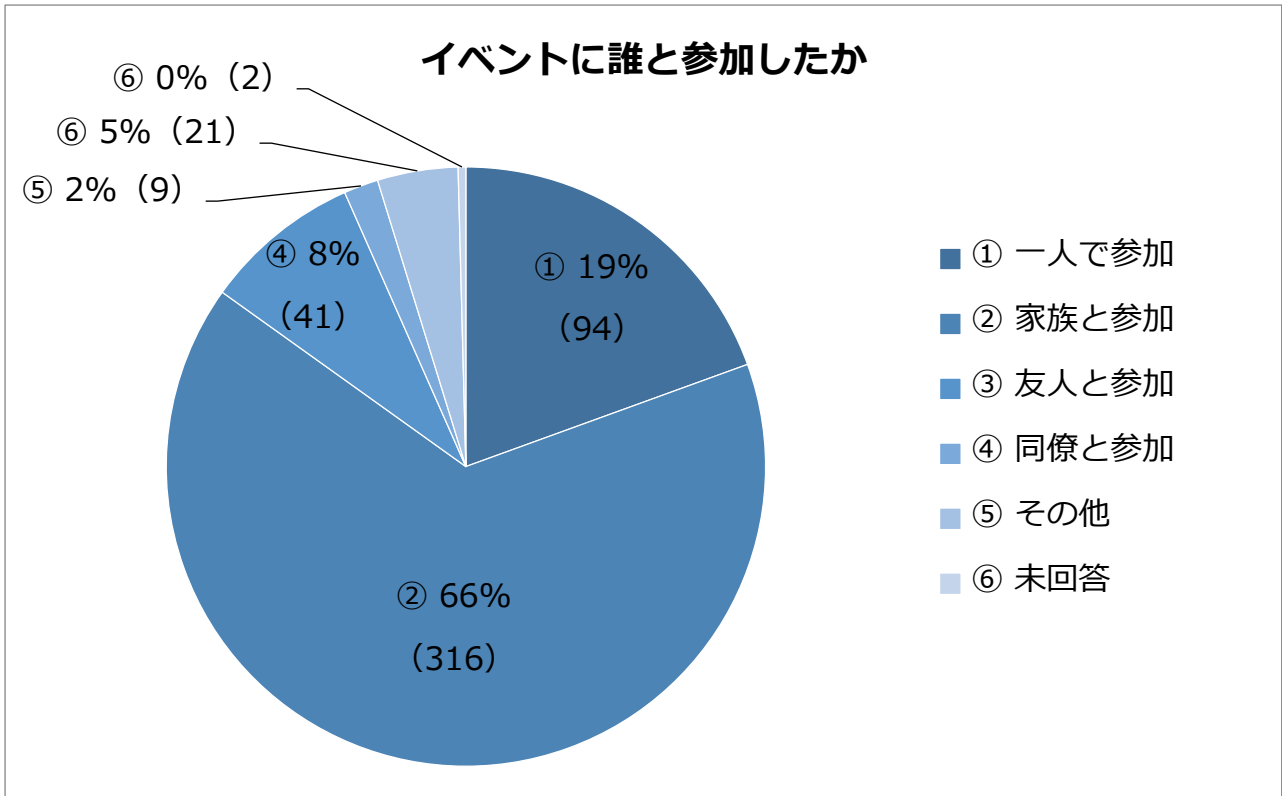
※ ( ) 内は回答者の人数



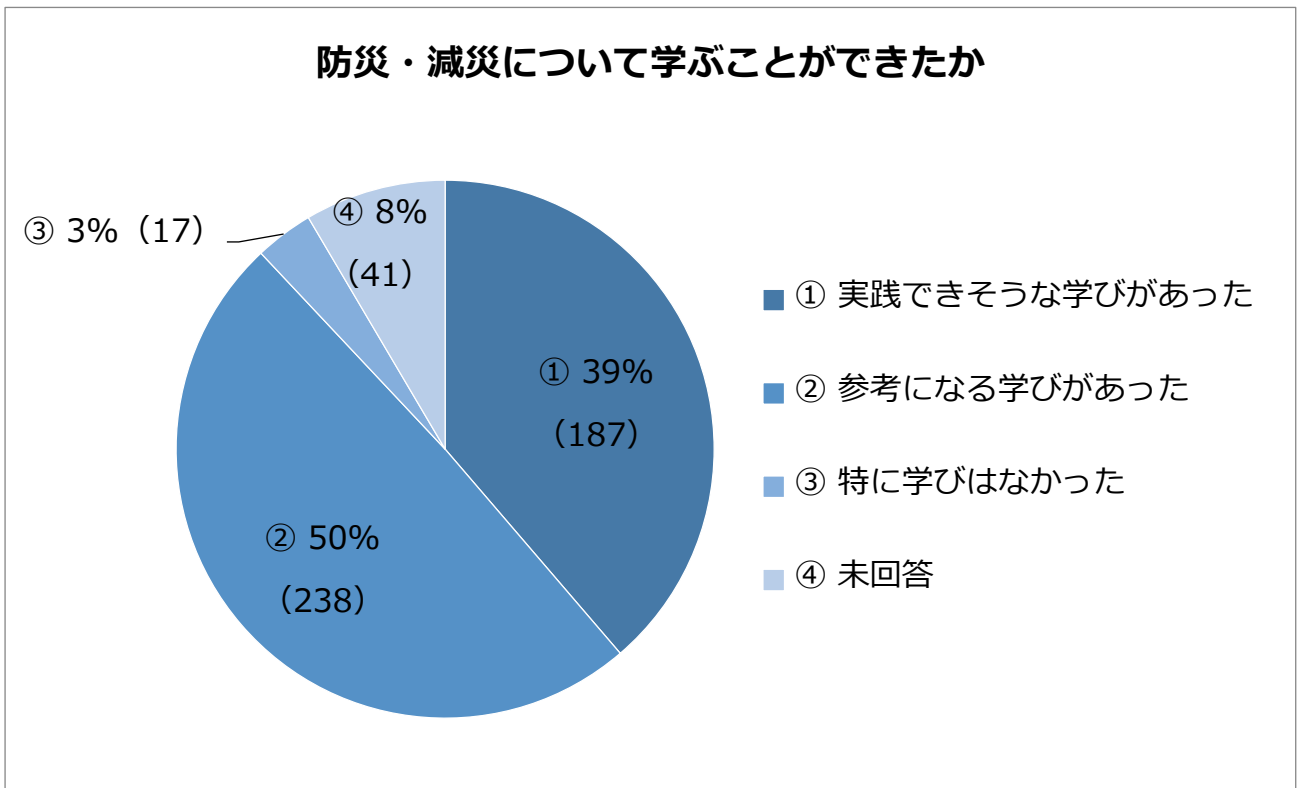


## 2. イベントを知ったきっかけと参加人数

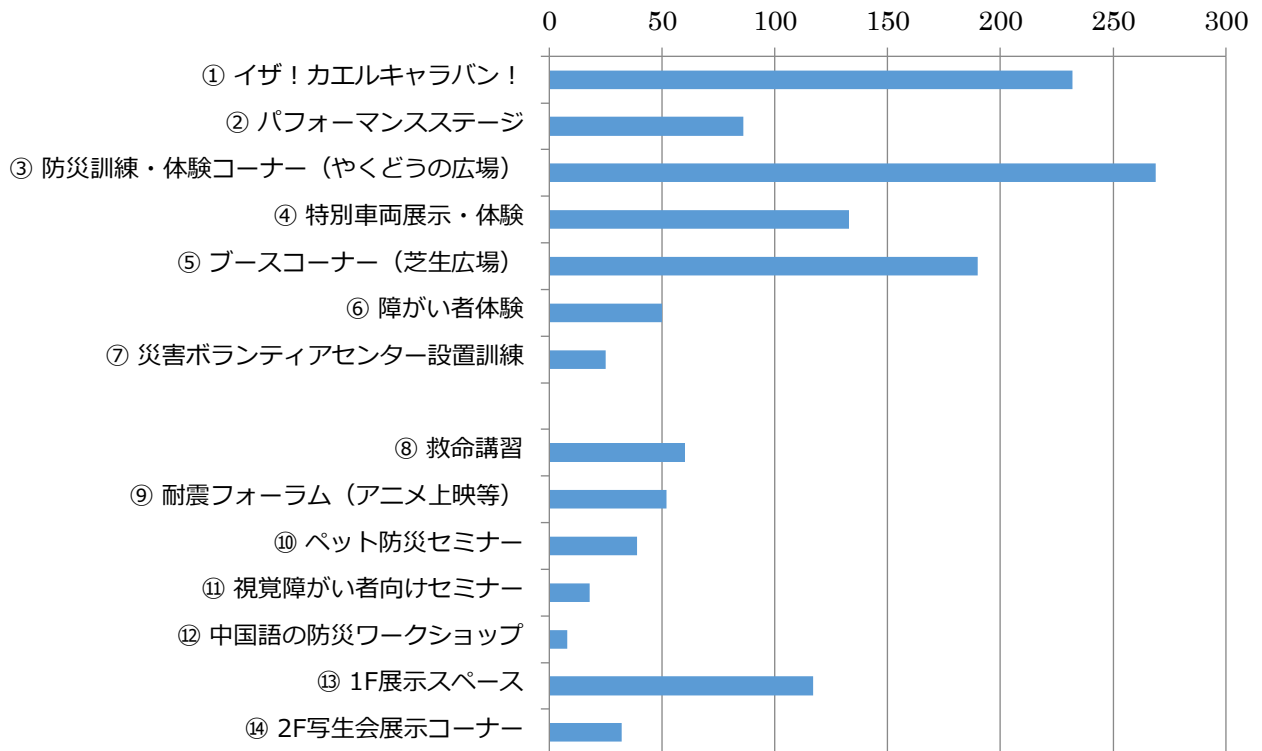




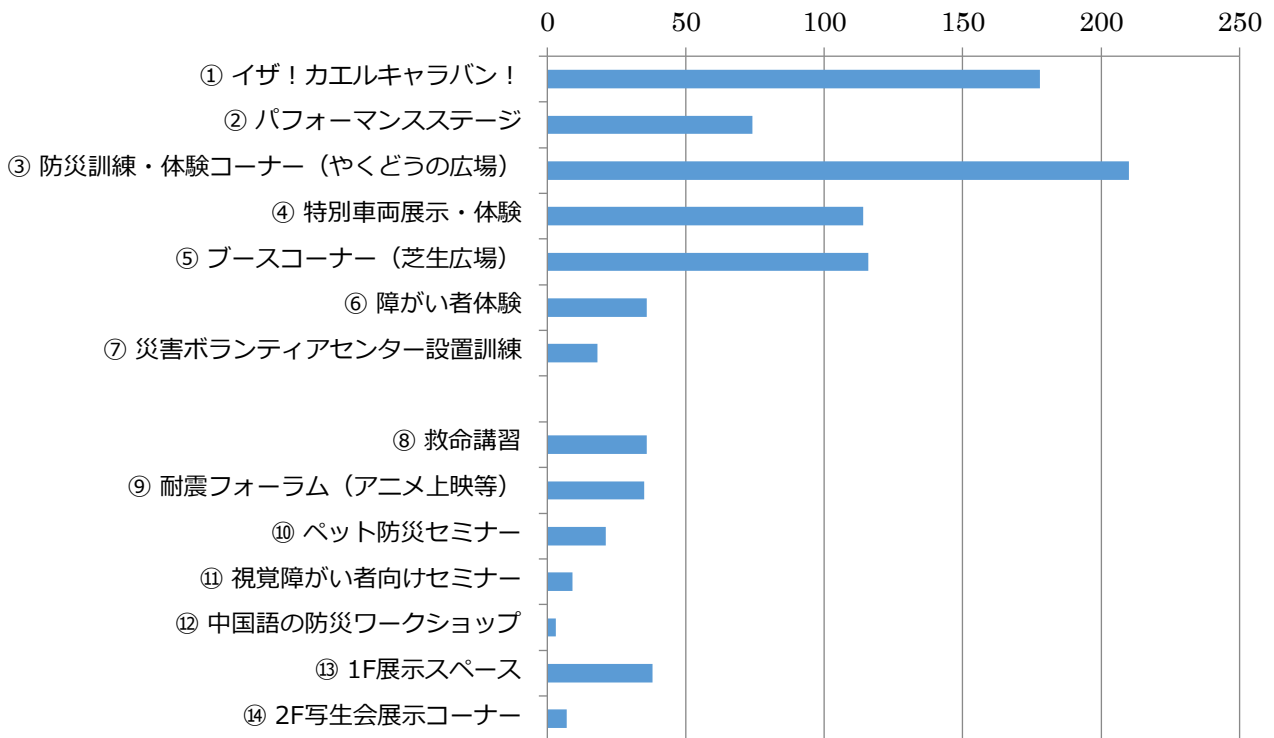
### 3. 満足度と参加したプログラムについて



## どのプログラムに参加したか

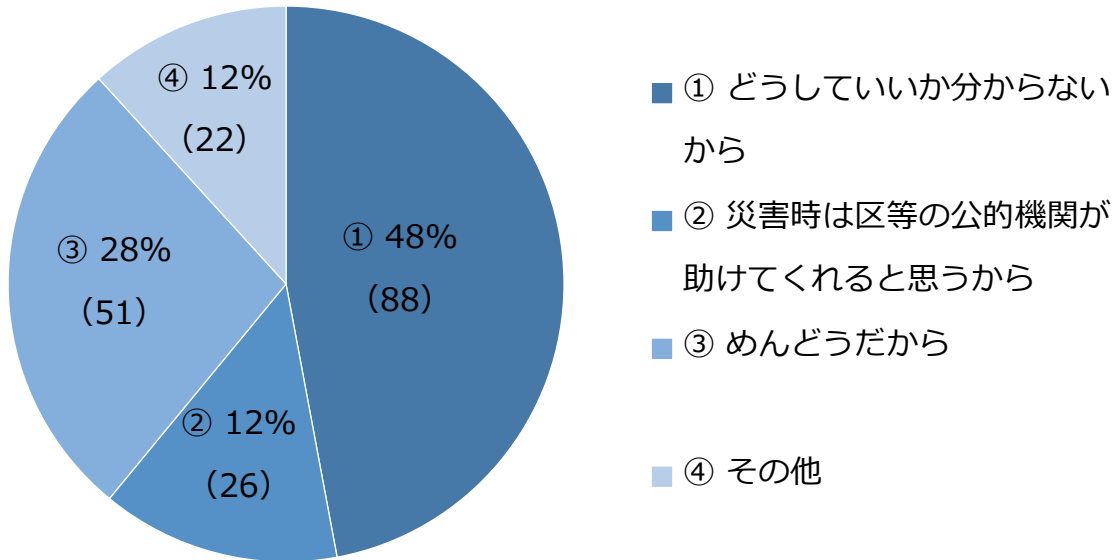


## 特に楽しかった・役に立ったプログラム

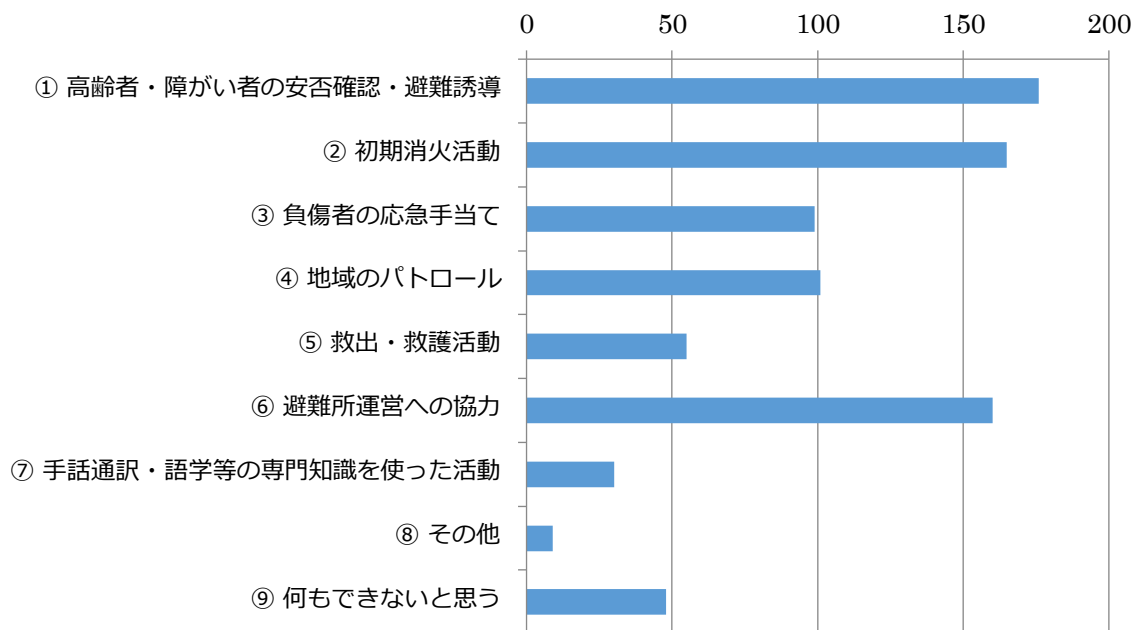


4. 災害への備え、災害時の共助について ※自宅の備えなど各項目の回答は省略

### 日頃、災害対策を行っていない理由



### 災害時にできると思うこと





## 5. その他自由意見・感想

### <フェスタへの感想>

- ・子供から大人まで楽しめて、とても良いと思う。
- ・楽しみながら学べる場があるのはよてもいいと思った。
- ・いつもそばで見ているだけだったが参加してよかったと思う。
- ・子どもが小さいので、防災については自分のいきだけでは不十分だとおもいました。
- ・実際に体験していないので、いざという時困ってしまうが、日頃家族と災害がおきた時の連絡先、避難場所等は確かめている。やさしい日本語での講習はためになりました。とても参考になりました。
- ・これからも、実戦で使える体験をもっとやって欲しいです。
- ・初めて参加したが考えさせられる事もあったので良かったと思う。
- ・定期的に、このような防災について考える日を作って、日頃から忘れずに防災に対しての備えをしたいと思います。
- ・実際の災害にあった時の大変さを実感できた。
- ・子ども（幼児）がいるので自分たちのことで精一杯になりそう。
- ・カエルキャラバンのおもちやの物々交換が非常にエコで経済的な取組だと思いました。来年もぜひ実施して欲しいです。
- ・煙体験ハウスに家族で入り、家族皆で助かる方法を学ぶ機会となりました。ありがとうございました。
- ・オール電化住宅なので東京電力でブレーカーをおとす話をきいたのは勉強になった。オープニングの演奏に参加した保護者だが、ブラバンの者につられて来てくれた親子が防災フェスタに参加すると言っていたのでうれしかったです。子供に演奏してよかったねと伝えます。
- ・区外の者なのですが、今回新宿区のこのイベントは初参加しました。エリアごとの取組、参考にしたいと思いました。
- ・参考になりました。アニメがかわいそうでした。今後そうならないことを願います。
- ・日頃からの備えが大事だと感じました。
- ・マンションなので町会に所属していない集合住宅での防災訓練をぜひしてほしいです。
- ・毎年楽しみにしています。

### <フェスタや地域防災への要望など>

- ・将来、未来の大人の子供達に主眼をおいたイベントに意義を感じるが大人と子供の間年齢…
- ・会場が広いので、どこで何をやっているかわかりにくかったです。屋内の休けい場所がほしい。
- ・賃貸住宅の人が耐震強化したい場合の方法を教えてください。
- ・トイレに特化したセミナーがあるといい。実際に被災した人たちの話がインパクトあります。話を聞くと（講演等）、備えをしてみようとか、〇〇の部分がわからないとか、前向きに考えられ、かつ友人たちとも話したりできます。
- ・大変参考になる&子ども大人がたのしめるイベントでした。「多文化」をめざす新宿区らしく、フードブース他を多国せき色ゆたかにしていただければ、さらに充実し、かつ「新宿」らしさがうちだせると思っています。
- ・町会の参加が見受けられない。地域へのPRと協力不足（区の体制は）？

以上

しんじゅく防災フェスタ2017  
地域防災・減災の担い手育成プログラム

# 実施のまとめ

「30年以内に70%の確率で起こる」といわれている首都直下地震をはじめ、風水害など様々な災害に対して、防災・減災への取り組みの必要性が高まっています。一方で、区民の防災に対する意識は、東日本大震災後をピークに低下が続いており、地域防災に関わる人の高齢化、偏在化が課題となっています。これらの課題と向き合うため、新宿区協働事業「地域防災の担い手育成事業」では、多くの方々に防災・減災の必要性を普及啓発するためのイベント事業と、研修やボランティア活動を通じた地域防災・減災の担い手育成事業に並行して取り組んで来ました。

本冊子は、「しんじゆく防災フェスタ2017」のボランティア活動を通じて、担い手育成事業に参加した人の感想や防災・減災に対する知識と意識の変化をまとめたものです。担い手育成事業の研修ハイライトとともに、ボランティアの内訳やアンケート結果も併せてご覧いただければと思います。

## 目次

はじめに	1
ボランティアの内訳	2
担い手育成 研修一覧	3
研修ハイライト	
防災・多文化まち歩き	4
避難所運営ゲーム(HUG)要配慮者版	5
TOMODACHIアラムナイ災害復興リーダーシップ・トレーニング	6
受講者の声	
運営ボランティア(ボランティアリーダー)	7
語学ボランティア	12
障がい当事者	13
東北ユースボランティア	15
ボランティアアンケート	16
終わりに	18

## 参加したボランティアは350名以上

本事業では、災害時に一人ひとりができることを増やすとともに、お互いに支え合うことができる関係づくりを目的に「地域防災・減災の担い手育成」を進めました。多様な人が集まる新宿区らしく、「しんじゅく防災フェスタ2017」当日には354名の個性豊かなボランティアが参加し、フェスタのテーマにも掲げていた「みんなでつくる」ことを実践することができました。

また、様々な人にネガティブなテーマである「災害」に向き合ってもらうため、研修やフェスタのプログラムには楽しく参加できるイベント性と、ボランティア活動において重要な自主性を取り入れました。

募集方法	名称・役割	人数	概要
公募	運営ボランティア	20名	ボランティアリーダーとしてフェスタの運営に携わり、6～12月には各種研修やミーティングも実施。
	語学ボランティア	20名	フェスタ当日の外国人来場者に向けたコミュニケーションのサポート。研修も実施。
	当日ボランティア	88名	フェスタ当日の設営・受付・誘導・救護などの運営サポート。
専門・団体別	ブースボランティア	81名	フェスタへのブース出展団体のボランティア。
	サービス介助士	7名	視覚、聴覚、肢体不自由者などの障がい当事者の来場者サポート。
	若者・ユースボランティア	50名	ステージ司会、子ども向け防災プログラムなどを担当。事前研修も実施。
	災害ボランティアセンター 設置・運営訓練	88名	フェスタで同時開催した訓練。新宿区社会福祉協議会が企画運営。
	障がい者等の要配慮者 ワーキンググループ	上記と 重複	障がい当事者と支援者の有志で情報・意見交換会や勉強会を実施。各種研修や企画に参加。

### 【ボランティア参加団体(略称表記)】

アトピッツ地球の子ネットワーク、永徳堂、ご近所SNSマチマチ、新宿区立障害者福祉センター、新宿CSRネットワーク、東京都助産師会中野杉並地区分会、東京土建新宿支部チームNAMAZU、東京YMCA、難民支援協会、日本ケアフィット共育機構(サービス介助士)、パルシステム東京、早稲田POST、TOMODACHIイニシアチブ



## ■担い手育成 研修一覧 (主な対象: ボランティアリーダー)

	日付	タイトル・テーマ	場所	内容	参加人数
1	6/18 (日)	区の防災対策 ／家庭での備え	新宿 スポーツセンター	・首都直下地震における新宿区の被害想定と防災体制を学ぶ。 【講師】新宿区危機管理課 ・各家庭での災害対策を考える。(わが家の災害対応ワークショップ) 【講師】ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)	24名
2	7/1 (土)	災害ボランティア 入門講座	新宿 スポーツセンター	・災害ボランティアの心構えや活動内容を学ぶ。 ・災害ボランティア経験者による活動報告。 ・災害用伝言ダイヤルの利用体験。 【講師】PBV	19名
3	7/23 (日)	サービス介助 基礎検定	区立障害者福祉 センター	・高齢者、障がい者とのコミュニケーションの基礎を学ぶ。 ・車いす操作、視覚障がいの体験。 【講師】日本ケアフィット共育機構	17名
4		防災・多文化 まち歩き ※p5参照	屋外	・戸塚・大久保地区のまち歩き。 ・防災・減災、障がい者施設や町の特徴である多文化要素を発見。 【講師】共住懇、PBV	27名
5	8/6 (日)	普通救命講習	新宿 スポーツセンター	・心肺蘇生やAED、異物除去、止血法などを学ぶ。 【講師】新宿消防署	14名
6		プレイベント ボランティア体験 ※p6参照		・障がい者等の要配慮者とつくる地域の防災・減災などをテーマにしたプレイベント(避難所運営ゲーム要配慮者版)を実施。 ・一連のイベント運営ノウハウを身に付ける。 【講師】要配慮者ワーキンググループ	61名
7	8/20 (日)	拡大実行委員会	大久保 スポーツプラザ	・拡大実行委員会に参加、全体の顔合わせ。 ・当日ボランティアのチーム割り振り、活動内容の確認。	51名
8	9/3 (日)	ボランティア リーダー実践 ／プログラム 受講	新宿 スポーツセンター ／戸山公園	・「しんじゆく防災フェスタ2017」の、各種プログラムを通じて防災・減災知識を習得。 ・ボランティアリーダーとして、チームをまとめるコミュニケーション等の実践研修。(運営ボランティア)	354名 ※p2 参照
9	9/24 (日)	フィードバック	新宿NPO 協働推進センター	・事前研修、フェスタの振り返りと、来年度のボランティア活動のためのマニュアル作り。	13名
10	10/28 (土)	避難所防災訓練	区立 落合第二中学校	・区内の避難所防災訓練への参加・見学。 【講師】新宿区危機管理課	6名
	11/11 (土)		区立新宿中学校 ／天神小学校		6名
11	12/10 (日)	アクションプラン 発表	新宿NPO 協働推進センター	・全10回の研修・実践体験を振り返り、個人のアクションプランの作成。新宿の防災・減災の取り組みへの提案。	4名
のべ合計					596名

歩いて・見て・発見する新宿区の多様性  
防災・多文化まち歩き

7月23日、防災・減災の設備や、多くの外国人住民が居住する新宿区の多様性を歩いて発見する「防災・多文化まち歩き」の研修を実施しました。研修で歩いて回ったのは、大久保地区と戸塚地区の2つのエリア。災害リスクのある場所や防災・減災、福祉施設、様々な国の文化と言語が混在しているエリアなどを訪れました。

まち歩きを終えた後には振り返りを実施し、歩いて回ることで見えてきた町の特徴や課題などを話し合いました。障がい者や外国人など、多様な人たちが暮らす新宿区ならではの災害対応を考えていききっかけとなりました。



がけ崩れや火災の恐れがある区域を確認。



都心に潜む災害のリスクに驚きの声を上げる参加者も。



講師は、地域の国際化・多文化共生に取り組む共住懇の山本重幸さんと、PBVの合田茂広が担当。



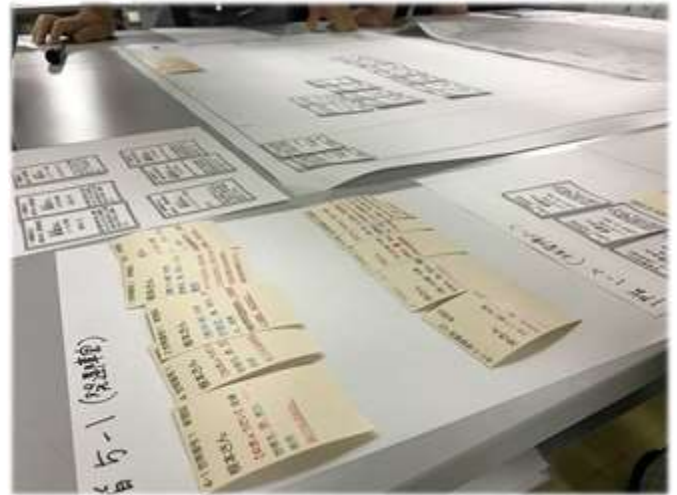
振り返りでは、座学だけでは得られない、実地研修ならではの気づきを共有。

## 当事者と共に考える災害時の課題と対応 避難所運営ゲーム(HUG)要配慮者版

8月6日、災害時の避難所運営を模擬体験するカードゲーム「避難所運営ゲーム(HUG)」の要配慮者版を実施しました。

「しんじゆく防災フェスタ2017」は障がい者等の要配慮者をテーマのひとつとして、障がい当事者を含む関係者が集まるワーキンググループで意見交換を重ね、様々なプログラムを準備してきました。

参加者は、要配慮者ワーキンググループのメンバーに加え、区、NPO、社会福祉法人、研究者、メディア、ボランティアなど、合わせて60名以上。避難所における要配慮者への対応について一緒に考えました。



参加した当事者は視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、構音障がい、知的障がい者の親の会など。それぞれの視点から、様々なアイデアが出た。



「障がい者にもも出来ることがある」との発言も。発災時にいかに障がい者の力を活かすかを重要な課題として話し合った。

### ●「避難所運営ゲーム(HUG)」とは

避難所運営について考えるため、静岡県が開発した教材。避難者の属性や事情が書かれたカードを、体育館に見立てた平面図に配置しながら、避難者への配慮や実際に起こり得るハプニングへの対応が疑似体験できる。

## TOMODACHIアラムナイ 災害復興リーダーシップ・トレーニング

東日本大震災の被災地の若者を中心に日米の次世代のリーダー育成を目的としたトレーニングを実施する「TOMODACHIイニシアチブ」のプログラム卒業生(アラムナイ)から、11名が「しんじゆく防災フェスタ2017」に2日間のトレーニングの一環で参加しました。

これまでのトレーニングで学んだ知識を、防災ボランティアという形でアウトプットすることが今回の目的。参加者は前日の合宿で学んだ首都直下地震における被害想定を踏まえ、自らの災害への備えについて考えるとともに、フェスタ当日には「イザ！カエルキャラバン！」のボランティアの一部を担当することで、来場した子どもたちへの防災知識の普及活動を行いました。防災・減災の取り組みを地域で実践する貴重な体験になりました。



「イザ！カエルキャラバン！」のボランティア。



フェスタでは活動紹介のブースも出展。



英語で実施された救命講習にも参加。



フェスタの設営・撤収もサポート。

### ●「TOMODACHIイニシアチブ」とは

東日本大震災の復興支援をきっかけに、日米の若者の教育、文化交流、リーダーシップ育成のためのプログラムを実施している。プログラムの卒業生(アラムナイ)には様々なフォローアップ研修が実施されている。



【ボランティアリーダーへの質問】

1. 運営ボランティアの活動に参加しようと思った理由は？
2. これまでの研修・活動で身についたことや感想。
3. 防災・減災に関わる活動など、今後取り組んでみたいこと。



コミュニティで防災・減災の講習会を行いたい。

植田 良治(ウエダ リョウジ)さん

60代 / 無職

1. 首都直下地震が想定されるなかで、体力を必要とするボランティア活動は難しいですが、運営ボランティア等の事務局的な活動に関しては現役時代のノウハウも活かせると考えたため参加しました。
2. 災害は、常に想定外に起きる事態だと改めて認識しました。また、災害時には「主役はボランティアではなく被災者である」と言う事を肝に銘ずるべきだとつくづく感じました(ボランティア活動で訪れた南阿蘇村で被災された方々からお話を伺いました)。
3. 現在自分が関わっているコミュニティで、防災・減災の講習会などを積極的に行いたい。また、新宿区内の団体での事務局的なお手伝いが出来ればと考えています。



知識と経験を日常生活でも役立てたい。

菅生 友紀(スガオイ ユキ)さん

30代 / 会社員

1. 関心のあった防災・減災についての知識を学べること、自身の課題であるコミュニケーション力を鍛えられること、そして社会貢献をしたいという思いから、参加を決めました。
2. 最も変わったことは、防災への意識です。常日頃から、災害が起きたときの対応を考えるようになりました。また、様々な立場の方とのコミュニケーションについて学べたことも大変貴重な経験になりました。特に、車いす操作や視覚障がい者体験ではどのような困りごとがあるか身をもって知ることができました。これらの研修で得た知識と経験を日常生活で役立てたいと考えます。
3. まずは、被災地での活動に参加したいと思います。



### 個人の災害への準備もしっかりと！

武居 勇登(タケイユウト)さん

20代/学生

1. 今までに学校の行事でボランティア活動に参加したことはあったけど、個人的に参加したことはなかったので、時間に余裕のある今だからこそ長期のボランティア活動を経験しておきたいと思いました。  
また近年、30年以内における首都直下地震の発生確率が非常に高いとメディアなどで取り上げられているのを見て、防災知識を習得しておきたいと思いました。充実した研修が費用の負担なく受講できるのも魅力の一つでした。
2. ハザードマップや避難経路地図の見方を知ることができました。また、災害発生時に避難が必要になったとき、障がい者の人たちがどのようなことに困るのか、健常者が障がい者のためになにができるのかを具体的に知ることができました。普通救命講習を通して心肺蘇生法や、AEDの操作など緊急時に役立つスキルも身に付きました。首都直下地震が発生した時の被害想定についても学ぶことが出来ました。
3. しばらくは防災に関する活動に参加できる時間はあまり取れないと思うので、個人的に震災時に対応できるように、非常食や水などを入れた避難用のリュックを用意したいです。また、震災時には部屋の中にガラス片が飛び散っている可能性があることが分かったので、室内用の靴も用意しておきたいと思います。



### 職場での帰宅困難者対策にも生かしたい。

永井 文子(ナガイアヤコ)さん

20代/会社員

1. 職場内の防災業務を担当しており、職員の防災意識を高めることの難しさを日々痛感していました。運営ボランティアでは防災の知識を身につけるだけでなく災害時における要配慮者対応といった普段なかなか取り組むことの無いテーマについても考えることが出来るとあり、活動を通してより災害を身近に感じ、自分自身の防災意識を高めた上で少しでも実生活や職場に還元できればと思い、参加させていただきました。
2. 避難所運営ゲームについて、避難所運営そのものや避難所における要配慮者について考えることが全く初めてだったこともあったためか、限られた時間の中で「自分は何ができるのか」「誰に何を頼むことができるのか」など即座に判断していかなければならない状況はゲームとは思えないほどとても緊張感を感じることができました。その後のディスカッションにおいて、「障がい者であっても出来ることがある。頼めることはどんどん頼んでほしい」といった旨の発言があったことがとても印象に残っています。災害時という緊急事態であるからこそ、頼む/頼まれるといった信頼関係を築いていくことがとても重要だと感じました。
3. 防災については当事者意識を持つことが一番重要だと思います。職場でも災害を自分事として考えてもらえるようなイベントを行えないかと考えています。例えば自分たちの職場で災害が起こった際、帰宅困難となった場合は、職場が一時的に避難所のようなことも考えられます。そういった状況を想定した研修などを職場で提案しても良いかもしれないと考えています。災害をもっと身近に考えてもらえるようなことを企画していきたいです。



大学や地域での活動の幅を広げたい。

筒井 佑夏(ツツイ ユウカ)さん

20代/学生

1. 運営ボランティアをやってみないかとお声をかけていただいたのもあるのですが、大学の所属しているボランティア団体で年間テーマが防災・減災について学んでいこうというものを設けており、大学外でも防災・減災についての知識や技術を習得していければと思い、参加しました。また、今年のしんじゆく防災フェスタのテーマが障がい者等の要配慮者ということで、大学で福祉を学んでいる身として関心を持ちました。

2. 運営ボランティアになってから初めて障がい者の方と交流する機会でもあった、HUGを行ったことが印象に残っています。避難所に来る人は様々な障がいを持っている方、多国籍の方等、沢山のケースを体験しましたが、1つのケースに対処する時間が長くなってしまい、運営がなかなか進みませんでした。運営をするにあたり、正確且つ迅速な判断能力が求められることを学びました。そして、障がい者の方も含めて話し合いしたつもりでしたが、振り返りの際にもっと話したかったと聞き、配慮が足りなかったと反省しました。

また、他の人が気づかなかった当事者ならではの目線で意見を言って頂き、多面的な視点を持つことの大切さに気づくことができました。

3. 運営ボランティアでの経験を活かして、大学内での活動の幅を広げたり、地域の防災に関連するボランティアへ積極的に参加していきたいと思います。10月の研修で避難所防災訓練に参加しましたが、自分の住んでいる地域ではいつ行われているのか知らなかったので調べることから始めたいと考えています。実際に参加して、自分の地域の学校には同じような準備がなされているのか気になりました。

また、大学のボランティア団体で防災カフェまつりという子どもも楽しく学ぶことのできるイベントに参加することになったので、運営ボランティアで得た知識を踏まえて、日々災害に備えることの大切さを沢山のの人に伝えていければ良いと思っています。



個性的なメンバーとの学びが刺激的だった。

西岡 潤二(ニシオカ ジュンジ)さん

40代/会社員

1. ピースポート災害ボランティアセンターの「災害ボランティア入門」、「災害ボランティアリーダートレーニング」で学んだことがありましたが、さらに踏み込んだ内容を継続的に学びたかったからです。また、様々な研修内容があり、多様な内容が学べることを期待したためです。

2. 「防災・多文化まち歩き」は色々な発見・気づきがあつて非常にためになりました。また来年、別のコースで受けてみたいと思いました。特に「点字図書館」、「ベルサール高田馬場」(東日本大震災時の自主避難先、帰宅困難者の避難先)が印象に残りました。

11月の避難所防災訓練への参加では、普段触れる機会のないスタンドパイプの使用を体験できて良かったです。また運営ボランティアメンバーにも個性的な方々が多く、交流し共に学ぶことはとても刺激的でした。

3. 居住地域の町会の防災訓練参加、スタンドパイプ使用経験をもっと積みたいと思います。しんじゆく防災フェスタ以外にも、防災・減災関係のイベントがあつたら積極的に参加してみたいです。



被災地でのボランティア活動にも参加してみたい。

藤森 大輔(フジモリ ダイスケ)さん

20代/学生

1. 防災のことを学びたいと思ったからです。東日本大震災をはじめ、大地震がいつ起こるか分からない日本に住んでいる限り、地震の被害は免れません。その被害に対処していくための知識を習得したいと思い参加しました。

2. まず災害に関する知識が身につきました。地震が起こるとどんな被害が予想されるのか、どんな問題が起こるのか、避難のときにはどんな問題が起こるのかなどの災害で発生する問題について知りました。

そして、その対策の知識として防災についても学びました。地震の起こる前の対策、起こった後の対処方法、避難所での生活や運営の仕方、さらには災害時の障がいのある人の対応方法など様々な防災の知識が身につきました。これまでの研修で学んできた知識は、今後自分の身を守る、また大切な人や周りの人を助ける上でもとても重要なものだと思います。これらの知識を様々な活動で多角的に習得できたことは、とても良い経験となったと思います。

3. 今後はこの活動で身についた知識を活かして、まず身の回りの防災に取り組みたいと考えています。研修以前は知識に乏しかったため、身の回りの防災対策が不十分でした。まずは一番やりやすく重要な自分の身の回りの対策から始めていきたいです。

また、今後は被災地での災害ボランティアなどにも参加してみたいとも考えています。まだ自分は実際の被災地を見たことが無く、被災地のボランティアにも参加したことはありません。今回の研修、活動で被災地でのボランティアにおいての知識なども学ぶことができたので、今後はこの知識を生かして被災地でのボランティア活動も経験していきたいです。



街なかの防災設備や機器にも関心を持つように。

米田 真三(ヨネダ シンゾウ)さん

50代/会社員

1. 業務上、必要な知識であると同時に生活するうえで欠かせないものとなってきているためです。またその知識、体験をイベントの運営側として関わることが出来る貴重な機会であったため参加しました。

2. 街なかでの防災に関する設備や機器など普段目にしていながら意識していなかったことに関心を持つことが出来ました。また障がいのある方への配慮は実際に活かしていきたいと思います。

3. 地域での防災関連のイベントがあれば積極的に参加し、今回得た知識、体験を自分のものとしていきたいです。



交流することが、無知の不安と誤解を防ぐ。

林 玫辛(リンビンシン)さん

20代/大学院生

1. 自分の持っている防災知識を活かそうと思い、これまでも防災イベントでのボランティア活動を行ってきました。更に防災の視野を広げたく、違う立場から防災に関わっている方との交流を図るため、運営ボランティアに参加しました。
2. 運営ボランティアの研修では、地域リスクの認識から始め、自助と共助のステップを踏んで学びました。異なる背景を持つメンバーとの交流で、子どもや高齢者、従業者や雇用者、被災者やボランティアなど、様々な立場から防災を考えられるようになりました。  
また、障がい者や外国人などと直接話すことにより、当事者の希望が他人の配慮とずれていることに気づき、積極的に交流することこそが、無知の不安と誤解を防ぐと思いました。
3. 日常生活で防災に関することを口にして、周りの方が防災について考える刺激を与えていこうと思います。  
また、研修で学んだ高齢者や障がい者の感じるリスクや不便を常に念頭に置き、周りに困っている人がいないかとアンテナを張って助けられるようにしていきます。

## 【語学ボランティアへの質問】

1. 語学ボランティアの活動に参加しようと思った理由は？
2. しんじゆく防災フェスタでの語学ボランティアの活動を通して、身についたことや感想。
3. 防災・減災に関わる活動や多文化共生など、今後取り組んでみたいこと。



語学ボランティアで、「やさしい日本語」を担当。

鈴木 勝恵(スズキ カツエ)さん

対象言語: やさしい日本語、英語

1. 主な理由は2つです。まず、両親が福島県出身で、今も親戚が福島在住です。東日本大震災によって、防災に対する意識がとて強くなりました。2つ目は、現在、日本語講師をしているのですが、教科書の中でも防災がとりあげられています。授業中に使用している「やさしい日本語」を語学ボランティアとして活かせれば、と思いました。

2. 印象に残っているのは、日本語表記です。研修で、被災地でボランティアをするというゲームをしました。伝言や告知等を張り紙に書くのですが、「給水」「食事」など日本人向けの表記がほとんどで、外国人には伝わらないと思い知りました。語学ボランティアとは「話す」だけでなく「書く」も必要なのだと痛感しました。「やさしい日本語」は非常事態では使用されにくい現実があることも含め授業で活かしております。

3. 日本人を啓蒙したいです。外国人だからといって、みんなが英語ができるわけではありません。日本語が話せる外国人でも、ひらがなは大丈夫、カタカナはダメという人もいます。また、例えばイスラム教徒の場合、豚肉が原材料となっている食べ物全てが食べられません。そのような小さなことを事前学習することも多文化共生における「防災」の一つだと思うようになりました。



多文化共生と防災をテーマに修士論文を書きました。

林 義燦(ハヤシ ヨシアキ)さん

対象言語: 韓国語、英語

1. 私の語学力を活かして当事業に貢献できそうだと考えたことに加え、いわゆる多文化共生政策と防災政策に強い関心があったからです。修士論文のテーマも双方の政策に関するものでした。新宿区地域防災計画には、防災訓練に参加する外国人への支援を推進するという旨の記述があったので、当事業が民間との協働のもとでどのように行われているのかを見てみたい、かつその実施に貢献してみたいと思いました。

2. 研修の一環として、防災の観点から大久保地区を歩いたことが印象的でした。住宅密集地や道が細いレストラン街など、火事の危険性があったり避難が困難な場所や、韓国・朝鮮のみならず、ネパールやベトナム、西アジア地域などの「多文化」が存在していると思われる場所があり、地域の特性が色濃く出ていると実感しました。実際に現地を観察する意義を感じるとともに、様々な人が暮らす地域において、それに合わせた防災施策が求められると感じました。

3. 行政などが行う防災訓練や教室に、参加者やボランティアなどの様々な立場で関わっていきたくと思います。これには、外国人への防災知識の普及・啓発のみならず、地域に外国人が住んでいるということや彼らの考えなどを日本人に知ってもらう意義があると思います。参加する外国人(住民)の増加に寄与できるような取り組みを行った手伝うことで、防災知識・意識の向上と日本人と外国人との国際交流・相互理解の促進をしたいです。

### 【要配慮者ワーキンググループ(WG)参加者への質問】

1. WGへ参加した経緯／きっかけは？
2. WGや運営ボランティア研修に参加しての感想／良かったことなど。
3. 今後行っていきたい／期待する防災・減災に対する取り組みを教えてください。



### 障がい者の社会進出のひとつのきっかけが「地域防災」。

木暮 雅寿(コグレ マサトシ)さん

全盲、白杖ユーザー

株式会社アクトコール 人事労務ユニット

1. 普段は地域社会貢献として、区内小学校へ「障がい理解の訪問授業」を行っています。今回の「しんじゆく防災フェスタ2017」では、「要配慮者」というテーマが盛り込まれているため、障がい者当事者として協力して欲しいとの要望を受け参加いたしました。
2. 避難所運営ゲーム(HUG)では、障がい者と健常者との間にある認識と理解のずれを発見できました。同時に、さまざまな要配慮者がいて、どんな配慮を求め、必要とされているのか、ということも理解することができました。また視覚障がい者が避難所運営に入ることの難しさも痛感しました。いざ！というときほど、要配慮者に対する認識や理解を持っていただくことが重要であり、これには日常生活での相互的なコミュニケーションが必要だと気づきました。
3. 障がい者の社会進出のひとつに「地域防災への参加」は欠かせないものとして、今後も積極的に関わっていきたいです。要配慮者WGでは、日本語のできない外国人や、妊産婦さんを介助・援助する人たちについても学んでいけたらと思っています。



### 心のバリアフリーにも繋がったかな。

坂野 雅彦(サカノ マサヒコ)さん

車いすユーザー

新宿トライ工房

1. 今回、障害者福祉センターの館長より、「福祉避難所ワークショップの“出前”をやってみないかと」お声を頂き、新宿トライ工房として参加しました。このワークショップは、発災時を想定し、障害者福祉センターの利用者が一泊二日の宿泊体験をし、そこで浮き彫りになった課題を福祉避難所の運営に活かしていく事が目的です。それに付随した形で当事者団体による「障害とは何か」を体験するプログラムを地域住民向けに実施しました。

2. 企画段階から視覚、聴覚、知的、発達それぞれの障がいの人達と一緒に行って感じた事としては、他の障がいのこともある程度分かっていたつもりだったが、実際には理解できておらず、初めて気づくことが多くありました。一方、自信に繋がったことは、フェスタ当日に多くの親子が参加してくれたことです。特に子ども達が笑顔で体験してくれていたことが印象的でした。今回は「要配慮者」がテーマでしたが、「心のバリアフリーにも繋がったかな」と思いました。

3. 次回も、是非参加をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

### 要援護者にも出来ることは有る。



高橋 秀子(タカハシヒデコ)さん

四肢機能障害(要介護4)／電動車いすユーザー

1. 新宿区社会福祉協議会の福祉教育で関係ある職員からの依頼です。
2. 防災に関する取り組み等を知れた事が良かったです。また避難所運営ゲーム(HUG)では避難所開設の際に参加者が要援護者は守られる側としかとらえられていないことに驚きましたが、要援護者にも出来る事は有ると思います。

3. 要援護者は不便な事や不自由事は有りますが、工夫することで出来ることもたくさんあります。今後は守られる側としか思われていない要援護者への意識を変えて行くような取り組みを行って行きたいです。期待する防災・減災に関する取り組みとしては住民として、何らかの地域活動への参加者が増える事を期待します。



### 視覚障がい者に自分の経験や学んだことを伝えたい！

高澤 節子(タカザワ セツコ)さん

全盲、アイメイト(盲導犬)ユーザー

1. 福祉教育を実施する際にお世話になっている社会福祉協議会からお誘いがありました。東日本大震災を東京で体験してから、防災・減災について考えるようになり、興味もあつたため参加を決めました。
2. 地域で行なわれている防災・減災への取り組みは障がい者など、ハンディをもっている人は置いてけぼりのことが多いです。WGでは、障がいの種類を問わず、色々な人がいて普段関わらない障がいを持っている方も関わることができたことで、異なる障がいを持つ人同士が助け合うことができると思いました。
3. 頻繁に災害が発生している中で、いつ・どこで・どうなるかは分かりません。そういう状況で重要なのは、地域内のコミュニケーションだと思います。一人で考えていても分からないので、声を掛け合って、地域の住民との結びつきを強めて行くことが「はじめの一步」になると思います。地域とどうやって交わっていくか考え、「何かあっても大丈夫」な状況を作っていきたいです。また、他の視覚障がい者へ今まで自分が学んだことや体験したことを伝えていきたいです。



【東北ユースへの質問】

1. しんじゅく防災フェスタに参加しようと思った理由は？
2. これまでに行ってきた防災・減災の取り組みを教えてください。
3. 今後、防災・減災について取り組んでいきたいこと。



「楽しく」防災を学ぶことが大事！

佐々木 真琴(ササキ マコト)さん

岩手県宮古市出身

「イザ！カエルキャラバン！」運営ボランティア

1. しんじゅく防災フェスタには、1年目から参加しています。現在は群馬の大学に通っていますが、子ども向けの防災体験プログラム「イザ！カエルキャラバン！」を運営するNPO法人プラスアーツの活動にも高校時代から関わっています。

2. 中学2年生の当時、岩手県宮古市で東日本大震災を経験しました。丘の上の中学校のすぐ下まで津波がやってきて、水が引くまでの3日間は父と弟と私の3人で避難所の小学校の校庭で車中泊をしていました。避難所に避難していたお爺ちゃんとお婆ちゃんが、私たちの分の食料や物資をもらって分けてくれたのを覚えています。

高校2年生になり、「TOMODACHIサマー2013 ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」で、米国で街づくりやリーダーシップを学びました。そこで14歳で起業した若者に出会ったことが大きな刺激になり、自分でも何かやりたいとNPO法人プラスアーツのインターンに応募しました。3～10歳ぐらいの子どもを対象にした津波防災紙芝居「ちちんぷいぷい」では、一緒に声を出したり、体を動かすことで「楽しく」防災を学ぶことを大事にしています。子どもは「楽しく」学んだことは、家に帰ってからたくさん話します。子どもに伝えることで、大人にも伝わっていくんです。

3. 「イザ！カエルキャラバン！」もそうですが、避難訓練や防災イベントといった特別な機会だけでなく、普段から大判のハンカチをバッグに入れておいたり、たまには非常食で食卓を囲んでみるなど、もっと日常生活のなかで当たり前存在する防災の取り組みがあるはず。そんな「イツモ防災」を広めていきたいと思っています。



若者がもっと身近に実践できる防災のあり方を！

永沼 悠斗(ナガマ ユウト)さん

宮城県石巻市出身

TOMODACHIアラムナイ災害復興リーダーシップ・トレーニング参加者

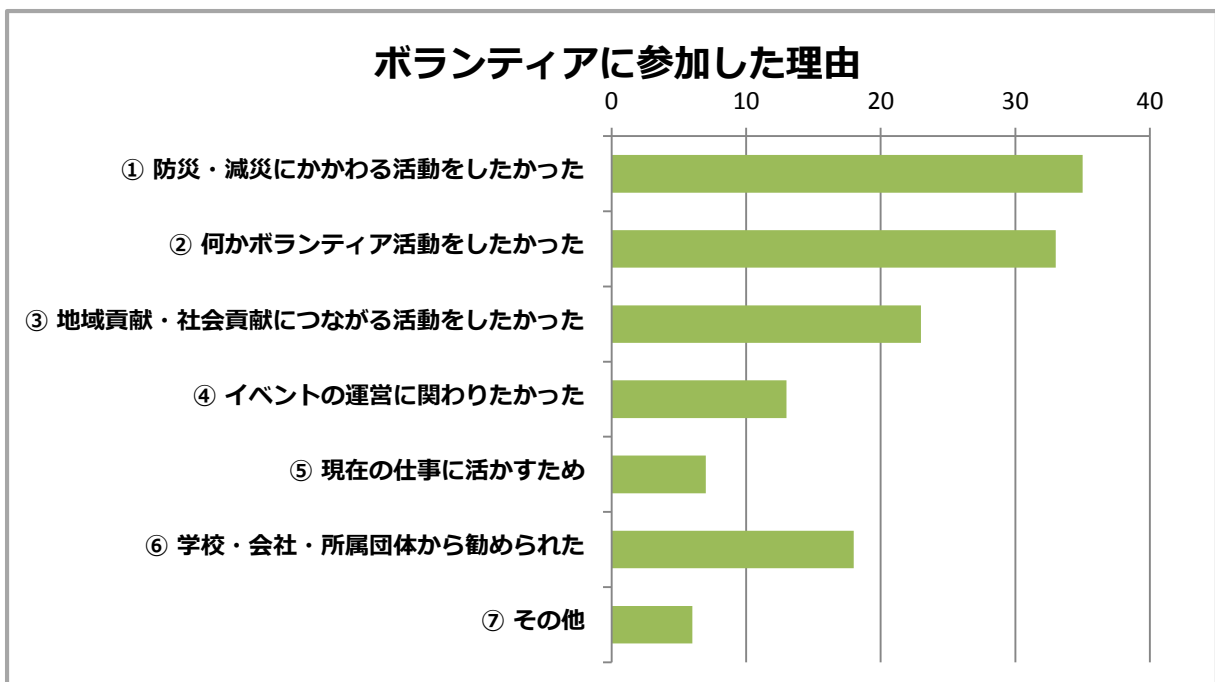
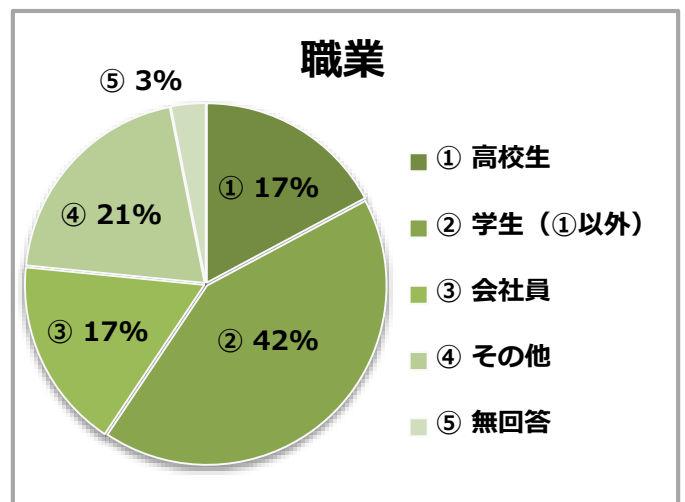
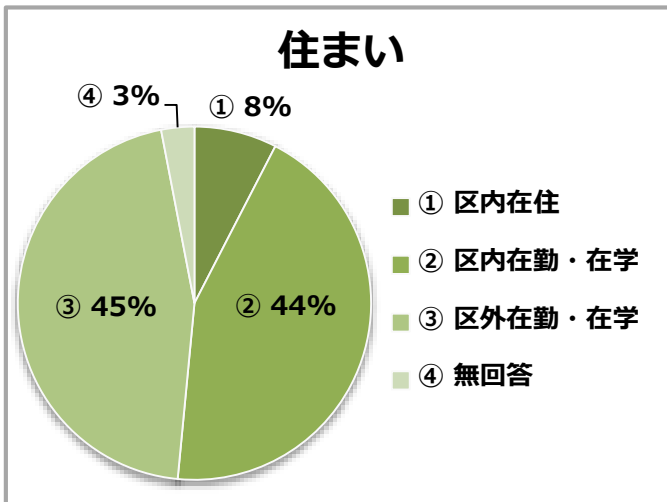
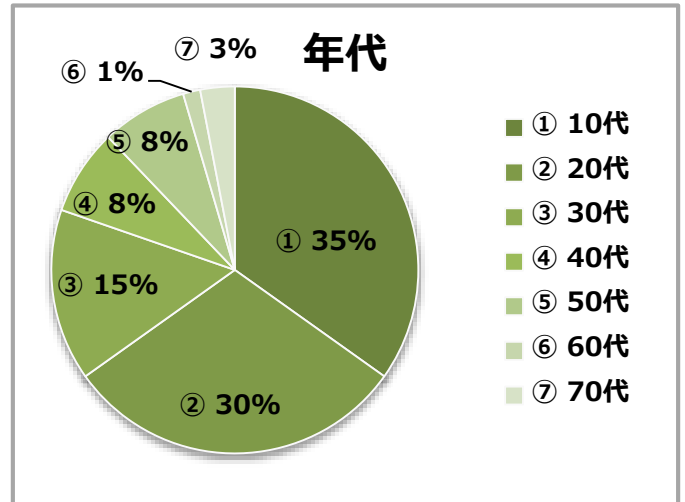
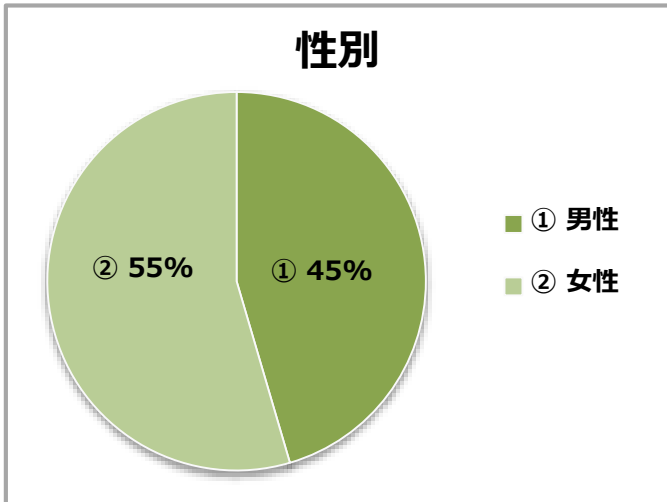
1. 2017年3月に防災・減災に関わるNPO・NGOが参加する「防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)」のユースメンバーと知り合ったことがきっかけで、「しんじゅく防災フェスタ2017」を研修の場として全国の若者が集まって学びあう「TOMODACHIアラムナイ 災害復興リーダーシップ・トレーニング」があることを耳にしました。

2. 東日本大震災当時は、高校1年生でした。高校が避難所になり、5日経って地元の大川地区に戻りました。実家は津波で流されていたので、しばらく同じ町内の避難所での生活が続きました。現在も、家族と一緒に仮設住宅で暮らしています。

防災と福祉をテーマにきちんと学びたいと思い、東北福祉大学に入学を決めました。子どもや障がい者、高齢者という福祉で扱う内容は国境もなく世界共通のテーマで、防災にも大切だと思って学んでいます。研修で災害医療・看護という専門的な切り口から災害対応を考える学生たちとの出会いも大きな刺激でした。また、新宿区の防災・多文化まち歩きを体験したことで、都市部での防災にも関心を持つようになりました。

3. 防災は、一軒家で家族暮らしなどの単位で語られることが多いような気がしますが、大学の友人たちは小さなアパートで一人暮らしがほとんどです。これからは、若者がもっと身近に実践できる防災のあり方を発信してみるつもりです。そして地元の石巻市では震災遺構や伝承・語り部の活動を通して、次の世代にも「災害は決して他人事じゃない」ということを伝え続けていきたいと思っています。

※回答者数:66名



## 【防災・減災や福祉、ボランティアに関わる活動で、今後取り組んでみたいことはありますか】

- ・自分の身の回りの防災についてもう一度見直そうと思いました。(複数)
- ・もっと防災・減災について詳しく知りたいと思いました。(複数)
- ・応急手当についてもっと深く知りたいと思いました。
- ・防災や減災のイベントに参加してみようと思いました。
- ・障がい者ともっと積極的にコミュニケーションを取りたい。
- ・避難所運営に関わることをもっと学びたい。
- ・東京都の防災について研究したい。
- ・災害時の健康管理についてもっと詳しく知りたいと思いました。
- ・子どもや障がい者も参加しやすい防災訓練を勉強したいです。
- ・ボランティアをまたやりたい。(複数)
- ・地域のボランティア活動に参加してみたいと思っています。(複数)
- ・被災地での災害ボランティアへ行ってみたいと思った。(複数)
- ・運営ボランティアとして人を上手に動かすことができなかつたので、運営する力もっと学びたいと思いました。
- ・今、定期的に訪れている岩手の復興支援活動から学び得ていることと、今回の学びを関連させて、防災意識を高める活動をしたい。
- ・人と関わる仕事がしたいと思いました。(複数)
- ・全く知らない人にも笑顔で話しかけられるようになりたいと思いました。
- ・子どもがいるので、減災や福祉について体験させたい。
- ・自分の大学内で防災・減災のイベントがあることを広めていきたい。
- ・地元のボランティア活動を立ち上げたい。
- ・職場の減災。職場と地域(新宿区、渋谷区)をつなげたい。

## 【新宿区の実施する防災・減災の取り組みについて、疑問点や課題、提案があれば教えてください】

- ・中学校での防災訓練に参加した際に、普段見ることの出来ないスタンドパイプなどの設備を見ることができ、とても有意義なものだと感じました。若年層の参加があまり見られなかつたことが気になりました。若手に訓練等に参加してもらい働きかけが積極的に行なわれると良いと思います。
- ・新宿区の場合、地方出身者と外国の方が多いので、町会等の地域コミュニティが大切だと思います。残念ながら、町会が機能しづらい現状(町会入会率の低さ・町会員の高齢化等)があるので、その点を具体的にどう是正していくかが、急がれると思います。自分ではその点が埋めきれていないので、危機感ばかり募っています。
- ・高田馬場駅周辺やさかえ通りには外国籍料理店などが多いが、おそらく自治会組織はないし、とても乱雑な構成になっている。もし災害が起こったら大惨事になる可能性が高い。こうした地域で、発災時に訪れた新宿区民や区外の人々の命を守るための連携・防災啓発を行政側からも積極的にしていくべきだと思う。
- ・まだまだ都心の地震に関する知識が乏しい人が多くいると思うので、さらに防災活動について周知させる必要があると思います。しんじゅく防災フェスタの参加人数は着実に増えているが、まだまだ足りないと思います。さらに増やしていけるように努力していくべきだと思います。
- ・新宿区は外国人が多い地域もあり、災害が起きたとき、日本人とは違う問題が起こる可能性が高いと思われます。その対策がまだまだ不十分な状態だと思うので、さらに努力する必要があると思います。
- ・今回研修に参加させていただき、様々な取り組みがなされていることに気づきました。情報を周知していくことが一人ひとりの防災意識を高め、災害時に生かされるのではないかと感じました。
- ・しんじゅく防災フェスタが、イベントだけで終わらない様、継続的な呼びかけを何らかの形でしたら良いと思います。

首都直下地震という大きなテーマに向き合うための新宿区協働事業「地域防災の担い手育成事業」は、2年目が終了しました。2011年の東日本大震災を通じて私たちは、想定外の大災害では事前に決めていた法律やマニュアルが十分に機能しない状況を経験しました。そのような状況下で、自ら考え、行動できるのは「ひと」です。本事業がイベントだけでなく、人材育成も目的に掲げた理由です。

防災区民組織などの地域防災を担う人材の高齢化や偏在化といった課題を抱えるなか、「ボランティア」は特に若者や現役世代の参加を促すために有効な手段でもあります。募集方法を工夫すれば、語学や障がい者サポート、企業のCSR活動など本業や特技を活かすこともできます。外国人や障がい当事者の参加もありました。本冊子での実績の人数からは除きましたが、フェスタ当日の目玉企画でもある「イザ！カエルキャラバン！」は、来場した小学生が受付のお手伝いといったボランティアを体験する機会にもなりました。大災害に直面したとき、「お客様」という立場はありません。一人ひとりが自分にできることを実践するための、貴重な場づくりができたと思っています。

計11回の防災・減災に関する研修では、自分や家族の身を守る「自助」から始まり、ボランティアや救命講習などの「共助」について、地域や避難所の防災訓練などの「公助」の取り組みを体系的に学ぶことができました。東日本大震災の被災地出身の若者や障がい当事者にも参加してもらったことで、一つひとつの講義やワークショップに深みが出ました。受講者からは、学んだことを地域や学校、職場などの防災・減災に活かしたいという感想とともに、全国のどこかで発生する被災地でのボランティアに参加したいとの声もありました。「被災地の現場」や「当事者」を大切にできる意識が根付いたことは、当初の研修目的を越えた大きな成果だったかもしれません。

残念ながら、日程が合わなかったり、体調不良で全員がすべての研修に参加できたわけではありません。研修内容によっては、定員オーバーで一部参加を断らざるを得なかったこともありました。イベントへの外国人来場者の呼び込み不足で、せっかくの語学ボランティアが手持ち無沙汰になってしまう場面もありました。障がい当事者への対応で、もっと上手にできたはずと思う出来事もありました。小さな課題はたくさんありますが、まずはチャレンジしてみたことで足りないことやこれからすべきことが見えるようになったと前向きに捉え、次年度に活かしていきたいと思っています。

「地域防災の担い手育成事業」には、参加してくれた受講者・ボランティアだけでなく、研修やフェスタ当日の各持ち場で多くの団体・個人の皆様にご協力をいただきました。本当にありがとうございました。感謝の言葉とともに、結びの言葉とさせていただきます。

2018年5月吉日

「しんじゅく防災フェスタ2017」実行委員会事務局  
一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター  
合田茂広



作成日:平成30年5月15日

作成者:しんじゅく防災フェスタ2017実行委員会事務局

一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)

## 注目のイベントとご案内

子どもたちに大人気！

イザ！カエルキャラバン！



多様性のある新宿へ

障がい者と一緒に参加！



おもちゃの物々交換 (かえっこ) と、楽しくアレンジした防災プログラムを組み合わせた防災イベント。阪神・淡路大震災の教訓と知恵を次の世代へ伝えたい！そんな思いから生まれ、家族や友達と楽しみながら防災知識が身につく工夫がたくさん。会場内の色々な場所で、防災訓練・体験に参加すればカエルポイントがもらえます。人気のおもちゃは、オークションに登場するよ！

障がい者や乳幼児、日本語に不慣れな外国人などは、災害時に特に多くの困難に直面します。障がい体験や東日本大震災での経験を学ぶ展示コーナー、英語や中国語での研修、視覚障がい者向けの防災セミナー、赤ちゃんを守るスキルが学べるブースなど、様々なプログラムが実施されます。多様な立場から一緒に防災を考えてみましょう。

### アンケートにご協力ください。

スタッフやボランティアがアンケートを配っています。ご協力いただいた方には、新宿スポーツセンター 1F の回収コーナーでドリンクをプレゼント (先着 500 本)。やけどの広場「C」の子ども (小学生以下) アンケートコーナーではお菓子 (先着 300 名) をプレゼントしています。

### ボランティアがお手伝いします。

各種外国語でのご案内、障がい者サポートなど、ボランティアが各プログラムへの参加をお手伝いします。ご希望の方は、お気軽に総合案内インフォメーションセンターまでお申し出ください。  
Language support (English, Chinese, Korean, Spanish, French, Nepali, Thai, Italian, Russian, Easy Japanese, German) is available at the information tent.

大人も、子どもも、若者も、外国人も、障がい者も  
みんなが楽しく学べる防災・減災イベント

# しんじゆく 防災フェスタ2017

新宿防災祭 | Shinjuku Disaster Prevention Festa | Festival para la prevención de Desastres de Shinjuku

9/3 SUN  
11:00 - 16:00

入場  
無料

しんじゆく  
耐震フォーラム  
2017  
同時開催！



- ・雨天時は一部プログラムを変更して実施します。荒天時にはイベント自体を中止することもあります。
- ・熱中症予防のため、こまめに水分補給 (新宿スポーツセンター 1F、3F に冷水機があります) や休憩をしないように心がけましょう。また、体調不良時にはすぐにスタッフに声をかけてください。
- ・イベントを妨害、または妨害するおそれのある行為はしないでください。実行委員会が必要と認める場合には退去を求めることがあります。
- ・会場では、ブース出展団体がブース内で実施するものを除き、事前に実行委員会の許可がないピラ・チラシ配布行為、物販・募金活動は禁止されています。
- ・イベントの様子を広く発信するため、当日は実行委員会記録スタッフや各種メディアによる取材・撮影が行われます。記録スタッフやメディア関係者は腕章または名札をつけています。撮影を希望しない方はお申し出ください。

- 実行委員会** 新宿区危機管理課、一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター、社会福祉法人新宿区社会福祉協議会、新宿区立障害者福祉センター、東京土建新宿支部チーム NAMAZU、公益財団法人東京都公園協会、公益財団法人東京都助産師会新宿中野杉並地区分会、公益財団法人東京YMCA、新宿 CSR ネットワーク、認定 NPO 法人難民支援協会、特定非営利活動法人日本防災推進機構
- 企画・広報協力** 新宿区町会連合会、新宿区教育委員会、新宿消防署、白大学社会学部メディア表現学科、特定非営利活動法人プラス・アーツ、TOMODACHI イニシアチブ、特定非営利活動法人みやぎセシル協働受注センター、公益財団法人日本ケアフィット共有機構、NPO 法人永徳堂
- 協賛金協力** 公益財団法人ウェスレー財団、TOMODACHI イニシアチブ、ブルデンシャル財団、パルシステム生活協同組合連合会、生活協同組合パルシステム東京、防災・減災日本 CSO ネットワーク、特定非営利活動法人ゆめ風基金
- 協賛品協力** 株式会社伊藤園新宿支店、スターバックスコヒー、IP-Net 株式会社、モバイルクリエイティブ株式会社、株式会社ハレルヤワークス

**お問い合わせ**  
(事務局) 一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター  
東京都新宿区高田馬場 3-13-1-2F-A / TEL: 03-3363-7967 / FAX: 03-3362-6073 / MAIL: shinjuku@bosai-festa.com  
(新宿区) 危機管理担当部危機管理課地域防災係 東京都新宿区歌舞伎町 1-4-1 TEL 03-5273-3874 / FAX. 03-3209-4069



## 新宿区災害ボランティアセンター設置運営訓練

Disaster Relief Volunteer Center Drill

つどいの広場 | 12:00 - 14:00

災害時のボランティア活動をコーディネートする「災害ボランティアセンター（災害VC）」の設置・運営訓練を実施します。  
※関係者のみ対象の訓練です。  
(企画・運営：新宿区社会福祉協議会)

## ブースコーナー Booths Corner

芝生広場 | 11:00 - 16:00

## フードブース Food

1. トルコ料理 (ロシケババ)
2. ガーナ料理 (アンタルキッチン)
3. タイ料理 (nico.nico.cafe)
4. スモーク料理 (Smokin' Bluemoon)
5. 各種ドリンク販売 (伊藤園新宿支店)
6. ミヤンマー (ビルマ) 料理と活動紹介 (難民支援協会)
7. カキ氷 (実行委員会)

## 体験と学びのブース Experience + Study

7. 作ってみよう ぼくとわたしの非常持ち出し袋！ (パルシステム東京)
8. アレルギー患者・災害弱者を対象とした被災者支援活動 (アトピッ子地球の子ネットワーク)
9. ご近所 SNS マチマチ
10. 乳幼児親子の防災①「災害時の抱っこおんぶ」  
②「被災時に赤ちゃんを守る栄養」(東京都助産師会新宿中野杉並地区分会)
11. TOMODACHI アラムナイ災害復興リーダーシップ・トレーニング (TOMODACHI イニシアチブ)
12. ダンボール工作 コマった時のコマ作り～災害時におけるメンタルケア～ (新宿 CSR ネットワーク)
13. 救助演習と体験 / ども木工作教室 (東京土建新宿支部チーム NAMAZU)
14. 車イスやアイマスクで避難体験 (新宿区立障害者福祉センター)

## 受付 Information

15. イザ！カエルキャラバン！受付
16. 総合案内・インフォメーション (救護、語学ボランティアサポート)

## 休憩スペース Rest Space

食事や休憩にご自由にお使いください。  
※多言語で学ぶ防災のパネルも展示しています。

## 防災訓練・体験

Disaster Education + Drills

やくどいの広場 | 11:00 - 16:00

- A** 水消火器での当てゲーム
- 毛布で担架タイムトライアル
- お家の防災グッズをななに？クイズ
- 紙食器づくり
- 防災カードゲーム「シャッフル」
- 煙体験ハウス
- 放水体験
- 応急救護訓練

## C

- マイコンメーターの復帰実演 (東京ガス中央支店)
- 電気安全について (東京電力パワーグリッド東京総支社)
- 防災に役立つ通信サービスの展示 (NTT 東日本)
- 新宿警察署災害展示 (新宿警察署)
- 自衛隊災害派遣装備品展示 (陸上自衛隊第1普通科連隊)

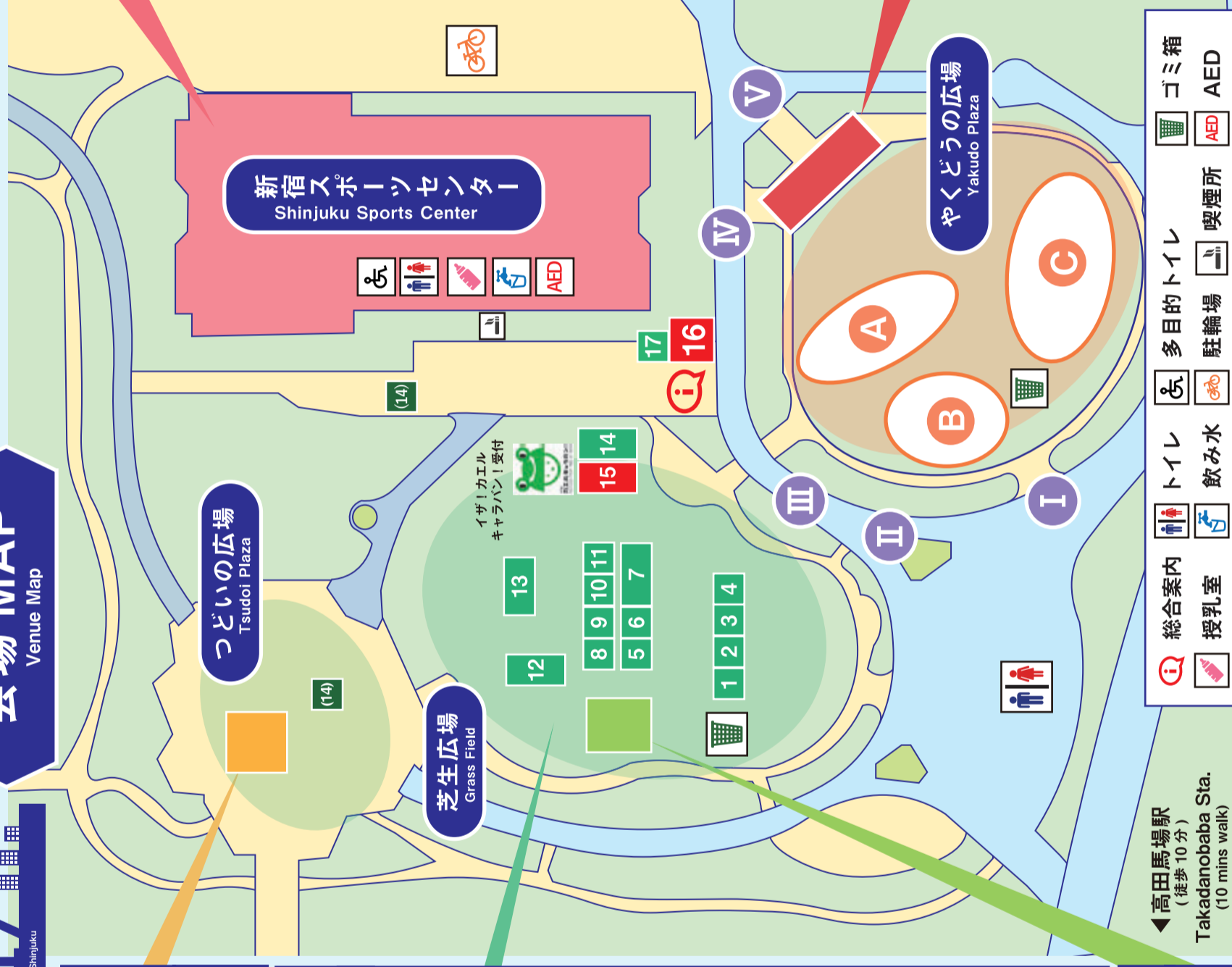
- トクする！防災プロジェクト (日本気象協会)
- 防災用品の展示・即売会 (東京都葛飾福祉工場)
- 建築物耐震化支援事業 (新宿区防災都市づくり課)
- ペット防災用品等の展示 (新宿区保健所衛生課)
- 炊出しごはん (新宿区防災サポーター)
- 戸山公園と防災 (東京都公園協会戸山公園サービスセンター)

※子ども用のアンケート回収コーナーもあります (裏面参照)。

## 会場 MAP

Venue Map

▲西早稲田駅 (徒歩 5 分)  
Nishi Waseda Sta.(5 mins walk)



## 屋内：特別企画、展示 Special Programs + Exhibition

新宿スポーツセンター | 11:00 - 16:00

### 大会講堂

- 11:00 - 12:30 しんじゅく耐震フォーラム 2017 『東京マグニチュード8.0』上映  
ペーパークアラフト配布
- 13:00 - 14:45 視覚障がい者のための災害対応ワークショップ
- 15:00 - 16:00 被災地に学ぶペット防災と同行避難の話

### 2F

#### 通路

- 11:00 - 16:00 「はたらく消防」写生会優秀賞(消防総監賞) 作品展示 (新宿消防署)

### 幼児体育室

- 10:30 - 11:30 A first aid course for beginners  
※pre-registration needed
- 13:00 - 15:00 汉语学習防災対策 「私たちの防災対策体験講座」

### ロビー 11:00 - 16:00

- ・3.11 ソレカラ～障害者・福祉職員の「あの日」と「ソレカラ」～ (みやぎセルブ協働受注センター)
- ・耐震ベッドの実物展示 (ニッケン鋼業)
- ・ラジオの無料修理・電池交換 (TBSラジオリフレッシュキャンペーン)
- ・アンケート回収とドリンク提供 (実行委員会)  
※14:00～スターバックスコーヒー (限定 200 杯) の提供

### 1F

## パフォーマンスステージ Performance Stage

やくどいの広場ステージ | 11:00 - 16:00

- 11:00 オープニング  
楽器演奏 (戸塚第一小学校吹奏楽団)、新宿区長の挨拶
- 11:45 ブースPR タイム
- 12:30 防災人形劇「おたまた劇場」1 回目
- 13:15 新宿シンちゃん、キュータと防災クイズ
- 14:00 てあわせのはら (みんなのダンスワールド)
- 14:45 防災人形劇「おたまた劇場」2 回目
- 15:30 かえっこオークション (イザ！カエルキャラバン！)

## 特別車両展示・体験 Rescue Vehicle + Earthquake Simulation

やくどいの広場周辺 | 11:00 - 16:00

- I** 軽装甲機動車
- II** 救急車
- III** 消防広報車、ミニ防火衣装着体験
- IV** はしご車
- V** 起震車

# 大人も、子どもも、若者も、外国人も、障がい者も みんなが楽しく学べる防災・減災イベント



## みんなで楽しく防災フェスタ2017

新宿防災祭 | 신주쿠 방재 페스타 | Shinjuku Disaster Prevention Festa | Festival para la prevención de Desastres de Shinjuku



一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A



# 一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)

東日本大震災  
東北での支援

2011年4月、東日本大震災の東北被災地への大規模かつ継続的な支援活動のため、国際NGO「ピースボート」から独立。

国内外での  
災害救援

防災・減災への  
取り組み



## 防災・減災の取り組み

2011	「災害ボランティア・リーダートレーニング」開始 石巻市での視察・防災教育の受け入れ開始
2012	「災害ボランティア入門(Web検定含む)」開始
2013	「わが家の災害対応ワークショップ」開始 「支援を活かす地域力ワークショップ」開始 石巻市「防災まちづくり会議」メンバー
2014	第3回国連防災世界会議in仙台 104団体のネットワークで「市民防災世界会議」

## 主な加盟ネットワーク

NPO/NGO 関連	国際協力NGOセンター(JANIC)、ジャパンプラットフォーム フォーラム(JPF)、日本NPOセンター
国際関連	国連経済社会理事会、UNISDRレジリエントシティ・キャンペーン、GNDR
災害関連	JVOAD(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)準備会、震災がつなぐ全国ネットワーク、JCN(東日本大震災支援全国ネットワーク)、JCCDRR(防災・減災日本CSOネットワーク)、民間防災および被災地支援ネットワーク

## 災害救援活動

1995～	阪神・淡路大震災、新潟中越、中越沖地震、台湾大地震、トルコ大地震、スマトラ沖地震・津波 など
2011	東日本大震災(石巻・女川、南相馬) 台風12号(新宮)、豪雪(小千谷)
2012	九州北部豪雨(竹田、阿蘇) ハリケーン・サンディ(米国NY)
2013	国内豪雨(西伊豆、山口、栗石) 巨大竜巻(米国オクラホマ) 豪雨・土砂災害(伊豆大島)
2014	巨大台風ハイエン(フィリピン) 豪雪(小山、北杜)、豪雨(南陽、丹波、徳島) 土砂災害(広島安佐南)
2015	サイクロン(バヌアツ)、大地震(ネパール) 関東・東北豪雨(小山、常総)

# 首都直下地震が発生する確率は30年以内に70%以上 防災・減災への関心が低下、偏在化している。

参考:

平成25年度第1回モニターアンケートテーマ2 震災に備えて

- あなたは震災について、日頃からどのような情報を得ていますか？（上位回答）
  - 避難場所や避難経路 68.1%
  - 今後の地震発生の予測 53.1%
  - 震災時の心構えや準備 49.7%
  - 家庭でできる防災対策 46.7%
- あなたは防災訓練に参加したことがありますか？
  - 参加したことがある 20.3%
  - 参加したことはない 77.2%
- 防災訓練に参加したことがない主な理由は？
  - いつどこで開催しているかわからないから 68.2%
  - 忙しくて時間が足りないから 40.1%
  - 町会等に加入しておらず、参加しにくいから 14.7%
- 地域に自主防災組織があることを知っていますか？
  - あることも活動内容も知っている 9.3%
  - あることは知っているが、活動内容は知らない 25.1%
  - 知らない 62.3%
- 災害が発生したとき、地域の防災活動にどんな協力ができそうですか？
  - 避難所運営への協力(物資配給・炊き出し等) 63.7%
  - 災害時要援護者の安否確認や避難誘導 38.1%
  - 救出・救護活動、初期消火活動 ともに28.1%

参考:

平成27年度多文化共生実態調査

- 地震などの災害が起きた時のために、どのような準備をしていますか？
  - 特に何もしていない 26.0%
- 何もしていないのはなぜですか？（複数回答可）
  - 何を準備すればいいかわからないから 50.8%
  - 考えたことがなかったから 23.0%
  - 防災訓練や講座の情報が入らないから 22.1%
- 区内には住んでいる地域ごとに町会・自治会があり、災害が起きたときには避難誘導や避難所の設置などを行うほか、日頃は災害時に備えた防災訓練を実施しています。こうした防災訓練が実施されていることを知っていますか。また参加したことがありますか。
  - 参加したことがある 13.0%
  - 知っているが、参加したことはない 26.4%
  - 知らないし、参加したことはない 57.5%
- 新宿区にどのような災害対策をしてほしいですか？
  - 避難場所の掲示等を多言語にする 48.0%
  - 緊急時に多言語の放送や誘導を行う 44.5%
  - 外国語の緊急対応パンフレットを配る 39.1%
  - 地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする 30.2%
  - 地域の人同士が連絡・協力しやすいようにする 28.9%

# 新宿区協働事業「地域防災の担い手育成事業」 行政とNPOがお互いの強みを活かして課題を解決

## 目的

### ★ 幅広い世代への防災意識の普及啓発

防災イベント（しんじゅく防災フェスタ2016）を通して、ファミリー層・若年層・外国人等、日ごろ地域防災に関心の低い区民に対し、「自助・共助による防災対策の大切さ」を認識してもらうため、楽しみながら防災を学べる機会を提供し、各家庭の防災力を高めていくとともに、地域の防災活動への参加につなげていく。

### ★ 地域防災の担い手育成

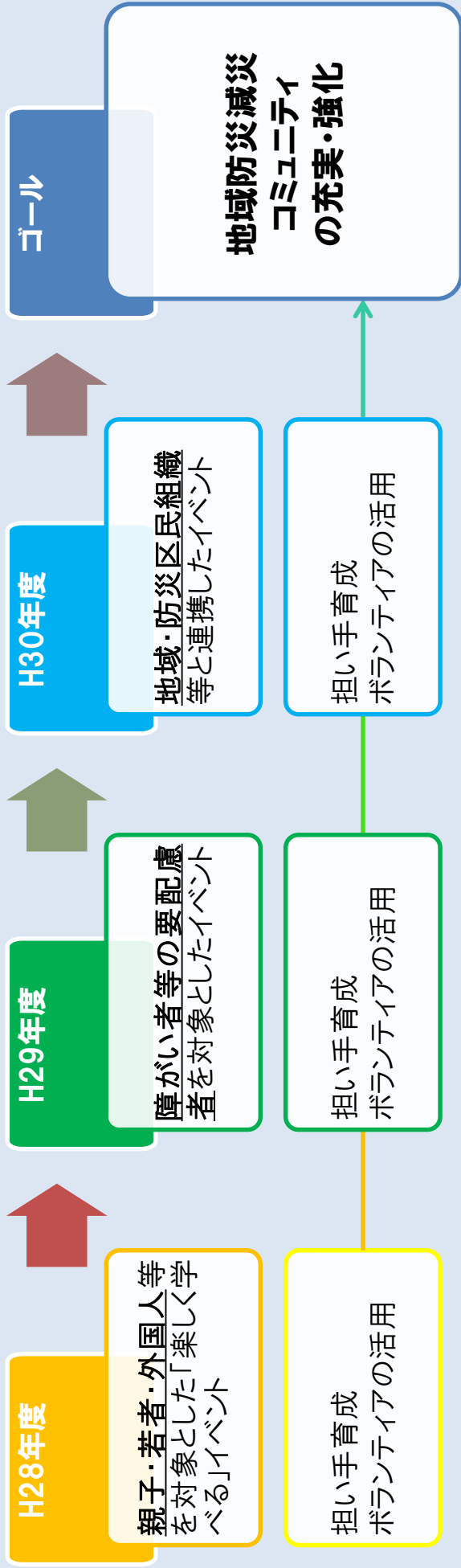
地域防災（防災区民組織・避難所運営管理協議会）において、現在、地域防災リーダーの高齢化並びに参加者等の偏在化が課題となっていることから本事業を通して、地域住民・学生及び事業者等の防災知識・技術の向上を図るとともに防災の担い手を育成し、地域防災コミュニティづくりにつなげていく。

## 事業内容

- ① しんじゅく防災フェスタ
- ② 地域防災減災の担い手育成プログラム



## 三年計画



# 1年目の課題と、2年目の対策

## 1年目の課題

- ・ 障がい者等の要配慮者の参加
- ・ イベントの段取り・時間の見直し
- ・ アンケート調査の数が不足
- ・ イベント予算の確保

## イベント

## 2年目の対策

- 当事者も含めたワーキンググループ
- 2時間短縮、ボランティア説明会の修正
- ドリンク・お菓子と引き換え
- 地域の企業への協賛のお願い

## 担い手育成

- ・ イベント後のフォローアップ
  - ・ 若い世代の運営ボランティア
  - ・ 災害時の動き
  - ・ 成果の見える化
- 
- イベント後も含めた全10回の研修に拡充
  - 学生、東北ユースプログラムの参加
  - 災害ボランティアセンター設置訓練
  - 成果物・コメント集の作成



# 対象者に合わせた各種プログラム

イベント

子ども



外国人



障がい者



耐震フォーラム



訓練



体験



ステージ



ブース



復興支援



# 「楽しく」防災・減災を学ぶことができました。



防災について楽しく知ることができたので来年も来たい。

小さい子どもにも煙や地震、救命などの体験ができた。

町会に所属していないマンション等の集合住宅での防災訓練も実施してほしい。

いざという時のための準備を怠らない。皆で乗り越えられるように日ごろから準備をしておこうと思う。

タンザニアジャーナリストと一緒に救命講習やさまざまなプログラムに参加しました。その後、東アフリカや日本のスワヒリ語ラジオで放送し、スタッフもリスナーも大変勉強になったと言っていました。（NHK国際放送局／スワヒリ語担当）

オール電化住宅なので東京電力でブレーカーをおとす話をきいたのは勉強になった。オーブニングの演奏に参加した保護者だが、友人の親子も参加してくれた。子どもにも演奏してよかったねと伝えます。（40代女性／子どもと参加した母親）



# 対象別のボランティア



## 1年目

- 運営ボランティア
- 語学ボランティア
- 当日ボランティア
- ブースボランティア
- 撮影ボランティア

- 21名
- 29名
- 125名
- 36名
- 8名

219名

## 2年目

- 運営ボランティア
- 語学ボランティア
- 当日ボランティア
- ブースボランティア
- ユースボランティア
- その他ボランティア

- 20名
- 20名
- 88名
- 81名
- 50名
- 95名

354名

## 運営、団体、当日ボランティア募集中!

## 3年目





# 災害時を想定したボランティア向け研修

担い手育成

防災の基礎



避難所



災害ボランティア



まち歩き



障がい者



救命講習・安全管理



図上訓練



東北・熊本



チームビルディング



# 学んだ地域と経験を日常生活でも役立てたい！



自分の暮らす地域で、防災・減災の講習会を開いていきたい。

職場内で防災業務を担当している。  
学んだことを、職場での帰宅困難者対策にも生かしたい。

身のまわりの防災とともに、  
被災地でのボランティアに参加してみたいと思うようになった。

まち歩きを通じて、韓国・朝鮮のみならず、ネパールやベトナム  
など、新宿の地域特性である「多文化」を実感できた。



大学で福祉を学んでいることもあり、要配慮者についても学べる  
運営ボランティアに興味を持った。障がい当事者の方からの意  
見を聞くことで、多角的な視点の大切さに気づきました。(運営  
ボランティア／学生／女性)

東日本大震災で被災し、いまも仮設住宅に暮らしています。東  
北のユースのボランティアプログラムとして参加しました。若者が  
もっと身近に実践できる防災のあり方を発信し続けていきたいと  
思います。(宮城県石巻市在住／学生／男性)

## 課題・対策

- ・ 障がい者等の要配慮者の参加
- ・ イベントの段取り・時間の見直し
- ・ アンケート調査の数が不足
- ・ イベント予算の確保

## イベント

- ・ イベント後のフォローアップ
- ・ 若い世代の運営ボランティア
- ・ 災害時の動き
- ・ 成果の見える化

## 成果

- 100名以上の障がい当事者が参加
- 短い時間で1年目以上の来場者
- アンケート数 130 → 825名
- **節約もしたが、実施団体が60万持ち出し**

- 体系だったカリキュラムになった
- 年齢、国籍が多様なチーム
- 初の災害VC設置訓練に90名
- 障がい当事者だって担い手になれる

## 担い手育成

# 3年目の新たな取り組み

## イベント

- ★「地域・コミュニティ」をテーマに。  
→「広める」イベントだけでなく、  
「深める」イベントとの2本立て

## 担い手育成

- ★ 多様性のあるボランティアを。  
→障がい当事者も運営ボランティアに参加

## 地域の「受援力」を考える特別フォーラム

- 日時** 2018年7月8日(日)
- 場所** 戸塚地域センター 多目的ホール
- 対象** 防災区民組織、行政・NPO・ボランティア 約80名
- 内容**
- ①【語り部】東日本大震災の被災体験と復興
  - ②【ワークショップ①】災害時の支援と受援
  - ③【ワークショップ②】地域資源を発見しよう！
- ゲスト** 阿部紀代子さん(石巻市在住/割烹「八幡家」女将)

## 「しんじゅく防災フェスタ2018」開催決定！





# 運営ボランティア 大募集!

2018.9.2(日)  
開催決定!

積極的に地域の防災・減災に取り組みたい皆様のご参加  
をお待ちしています。

興味のある方は、まずは説明会へ!

## 運営ボランティア(ボランティアリーダー)説明会

【第1回】4月28日(土) ①10:00～11:30 ②13:00～14:30

【第2回】5月13日(日) ①10:00～11:30 ②13:00～14:30

【第3回】5月20日(日) ①10:00～11:30 ②13:00～14:30

【会場】ピースポートセンターとうきょう(東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1)

### 活動期間 / 活動内容

【活動期間】

2018年6月～10月  
(土日を中心に月2回程度)

【活動内容】

- ・防災・減災に関する研修、ミーティングへの参加
- ・フェスタの準備、当日の手伝い
- ・フェスタ後の振り返り会等への参加

### 研修で学べる知識・スキル

- ・新宿区の防災体制について
- ・家庭での災害への備え
- ・避難所運営に必要な知識
- ・災害ボランティアに関する基礎知識
- ・イベント運営のノウハウ
- ・障がい者等の要配慮者について など

※各研修の参加費は無料です。

詳しい募集要項  
お申込みは...

## しんじゅく防災フェスタ 2018



団体ボランティア  
も募集中! ▶▶

学校や会社、サークルなど、グループでのボランティアも募集しています。  
イベント会場内の清掃や写真・動画の記録、特技や日頃の活動を活かして協力したい、なども大歓迎です!  
特殊スキルはないけれど、大人数でイベント運営の力になれる!という方もぜひ、ご連絡ください。  
人数や詳しい内容については直接ご相談の上で検討いたします。まずは事務局までお問合せください。

お問い合わせ

「しんじゅく防災フェスタ 2018」実行委員会(事務局:ピースポート災害ボランティアセンター)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-2F-A

TEL: 03-3363-7967 FAX: 03-3362-6073

Email: shinjuku@bosai-festa.com

HP: http://bosai-festa.com/



## しんじゅく防災フェスタ2018 運営ボランティア研修一覧

日時		タイトル	場所	内容	講師	
	5/26(土)	調整中	多文化防災フェスタ しんじゅく	大久保公園	新宿区の特徴である「多文化」を知る。 イベント運営に対するイメージを持つ。 (任意参加)	多文化共生 推進課
1	6/10(日)	10:00-12:00	ミーティング①	新宿スポーツ センター 小会議室	首都直下地震における新宿区の 被害想定と防災体制を学ぶ。  大規模地震をイメージし、各家庭での 災害対策を考える。	-
		13:00-13:30	新宿区の防災体制			危機管理課
		13:30-15:00	わが家の災害対応WS			ピースポート災 害ボランティア センター
2	6/24(日)	10:00-12:00	災害ボランティア入門	新宿区立障害者 福祉センター 会議室1	災害ボランティア活動を行なう上での 心構えや活動内容を学ぶ。	ピースポート災 害ボランティア センター
		12:00-13:30	ミーティング②			-
		13:30-15:00	障がい者と災害			調整中
3	7/8(日)	13:00-17:00	地域の 「受援力」を考える 特別フォーラム(仮称)	新宿区戸塚 地域センター 多目的ホール	宮城県石巻市のゲストから、 東日本大震災時の地域の取り組みを学 ぶ。	実行委員会
4	7/22(日)	13:00-15:00	ボランティアリーダー研修	新宿スポーツ センター 大会議室	前半の研修を振り返り、 さらに学びたいテーマについて深める。	ピースポート災 害ボランティア センター
		15:00-17:00	ミーティング③			-
5	8/19(日)	13:00-17:00	イベント企画 運営について	新宿スポーツ センター 小会議室	ボランティアリーダーの役割を学び、 フェスタ当日の動きを考える。	ピースポート災 害ボランティア センター
6	8/26(日)	14:00-16:00	しんじゅく防災フェスタ2018 拡大実行委員会	新宿スポーツ センター 小会議室	行政・NPO・企業など、フェスタ関係者 全体の顔合わせ。	実行委員会
		16:00-18:00	ミーティング④			-
	9/1(土)	調整中	前日準備	調整中	イベントの前日準備を行ないます。	実行委員会
7	9/2(日)	終日	しんじゅく防災フェスタ 2018	都立戸山公園 新宿スポーツ センター	ボランティアリーダーとして イベント運営に参加。	実行委員会
8	9/15(土)	調整中	災害時の避難所について	新宿スポーツ センター 小会議室	過去の災害から避難所運営や環境改善の ヒントを学ぶ。	ピースポート災 害ボランティア センター
			ミーティング⑤			-
9	9~10月	調整中	避難所防災訓練	新宿区内 小中学校 (調整中)	新宿区内の避難所防災訓練へ参加。	危機管理課
10	10/19(金)	14:00-18:00	防災まち歩き	高田馬場・大久 保地区 新宿スポーツセ ンター 大会議室	高田馬場、大久保地区を歩き、 防災・減災、多文化について学ぶ。	共住懇 PBV

※参加費は全て無料です。

※日時・内容など予定が変更になる場合もあります。

研修の一部は、キリン福祉財団「平成30年度地域のちから応援事業」の助成金により実施しています。

# しんじゅく防災フェスタ2018

新宿防災祭 | 신주쿠 방재 페스타 | Shinjuku Disaster Prevention Festa

2018.09.02 (SUN)

都立戸山公園  
新宿スポーツセンター

# ボランティア 大募集!

親子も若者も会社員も、おじいちゃんもおばあちゃんも外国の人も障がいのある人も！  
みんなで楽しく学べる防災・減災イベント、今年で3年目になりました！  
防災に興味のある方、イベントが好きな方...一緒に盛り上げませんか？  
資格・スキルのある方、グループでの参加も大歓迎！

▼興味のある方は、まずは説明会に！▼

## 当日ボランティア説明会

第1回 7月22日(日) 10:00～11:30

第2回 7月29日(日) 13:30～15:00

第3回 8月5日(日) 13:30～15:00

会場は、いずれも

新宿スポーツセンター2F大会議室  
(東京都新宿区大久保3-5-1)

説明会への参加をご希望の方は、公式ホームページよりご予約頂くか、実行委員会事務局までお問い合わせください。

▼詳しい募集要項・お申込みは…

しんじゅく防災フェスタ2018



ブース出展も募集中！(お申込期限:7月13日)

【お問い合わせ先】

「しんじゅく防災フェスタ2018」実行委員会(事務局:ピースポート災害ボランティアセンター)

〒169-0075東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A

TEL: 03-3363-7967 FAX: 03-3362-6073 Email: shinjuku@bosai-festa.com

HP: <http://bosai-festa.com/>



# 地域の『受援力』を考える 特別フォーラム

参加  
無料

買って応援!!

会場にて石巻市の  
復興支援商品も販売します。



～東日本大震災の経験から、首都直下地震を考える～

想定外のことが起こる大災害では、地域の人と人の支え合いとともに、全国から集まる支援をいかに復旧・復興につなげていくかも大切な取り組みです。30年以内に70%の確率で発生すると言われる首都直下地震に備え、大災害を経験した宮城県石巻市からゲストをお招きし、地域防災・減災を考える特別フォーラムを開催します。

**登壇者** 阿部 紀代子 氏 石巻市在住 / 割烹「八幡家」女将

石巻市中央にある大正2年創業の老舗日本料理「八幡家」の女将。店舗は東日本大震災によって被災地し、2012年7月に再開した。震災以前より、街づくりに積極的に関わり、株式会社街づくりまんぼう取締役を務める。震災後は、近隣約50世帯の在宅避難者のまとめ役として活動。多くのボランティアを受け入れた。2017年より町内会長も務めている。



日時

2018.7.8 日 13:00-17:00

定員

80名(要事前予約)

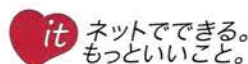
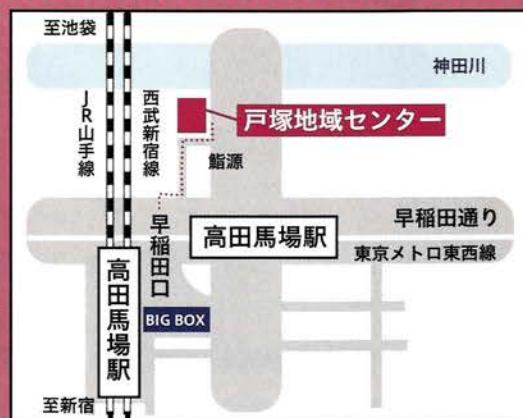
※定員になり次第、受付終了とさせていただきます。

場所

新宿区戸塚地域センター 7F 多目的ホール  
東京都新宿区高田馬場2-18-1

主催

しんじゅく防災フェスタ 2018 実行委員会



Yahoo! 基金

JR 山手線、西武新宿線、地下鉄東西線  
高田馬場駅から徒歩 3 分



「受援力(じゅえんりょく)」とは、災害時に全国から寄せられる支援を受け止め、地域の復旧・復興に役立てていくための力のことです。この力を育てていくためには、基本的な災害対応の仕組みを知り、過去の被災地の経験を学ぶことが役立ちます。そして、平時から地域での顔の見える関係をつくっておくことが何よりも大切です。参加型のワークも織り交ぜながら、新宿区の地域防災・減災について一緒に考えてみましょう。

**ゲスト** 阿部紀代子氏 (宮城県石巻市在住/割烹「八幡家」女将)

**進行** ピースボート災害ボランティアセンター



**第1部** 13:00～14:00 <講演>

### 東日本大震災の被災体験 / 現在の取り組みについて

宮城県石巻市は、東日本大震災で最も大きな被害を受けた自治体。全国からたくさんのボランティアも応援に駆けつけました。ゲストから、震災当時の様子と、7年経った現在の復興に向けた地域の取り組みについて紹介していただきます。



**第2部** 14:00～15:45 <ワークショップ>

### 災害時の困りごと・工夫、外部支援の活かし方

「情報・物資・ボランティア」の分野にわけて、災害対応の基本的な枠組みを解説します。その後、被災地で実際に直面した課題や葛藤について、テーマごとに設問を出します。グループで話し合いながら、対策を考えてみましょう。



**第3部** 15:45～17:00 <ワークショップ>

### 災害時に連携・協働できる地域資源を探そう!

各グループには、防災区民組織、行政、NPO、ボランティアなどの様々な立場の人が参加します。災害時に「自助」「共助」「公助」のそれぞれが連携・協働するため、模造紙を使ったワークで地域の役立つ「宝物」を探してみましょう。

※第1～3部の間には、それぞれ小休憩を挟みます。 ※ご都合等で途中退出される場合には、事前にお知らせください。

※当日は、記録スタッフによる写真撮影や各種メディアの取材が入る可能性があります。撮影を希望しない方はお申し出ください。

**開催決定!**

**しんじゅく防災フェスタ2018**  
新宿防災祭 | 災害予防 減災 | Shinjuku Disaster Prevention Festa

大人も、子どもも、若者も、外国人も、障がい者も、みんなが楽しく学べる 防災・減災イベント

**2018年9月2日(日) 都立戸山公園・新宿スポーツセンター 【入場無料】**

▼お問合せ しんじゅく防災フェスタ2018実行委員会 <http://bosai-festa.com/>

(事務局) ピースボート災害ボランティアセンター ☎ 03-3363-7967 受付時間/10:00～18:30(土日祝定休)

(新宿区) 危機管理課地域防災係 ☎ 03-5273-3874 受付時間/8:30～17:15(土日祝定休)

(MAIL) [shinjuku@bosai-festa.com](mailto:shinjuku@bosai-festa.com)

## 2018 年度実施内容

### 1 実施内容等について

(1) 事業推進のためのプロジェクト推進会議の開催（3回）

進捗管理、事業を推進するための検討会議

[構成メンバー] 摂食嚥下機能支援委員会座長、新宿区医師会、歯科医師会、町会、  
体操団体、地域活動団体等医療、介護、保健、地域、高齢者支援等に日  
常的に関わっている団体・組織の方々6名

(2) 区民への普及啓発

[回数等] 啓発イベントの開催（1回）

[目標参加者数] 区民 50名

[イベント内容] 講演、新宿ごっくん体操講習、相談コーナー

[実施場所] 公的施設集会室

(3) 普及啓発活動を推進する、地域の担い手の育成

担い手の知識、体操習得等を目的とした講習会の開催

[対象参加者] 担い手候補及び担い手への講師役候補

[講習会内容] 講演＋新宿ごっくん体操講習

[開催回数・目標参加人数等]

①専門職対象

開催回数：1回

参加人数：医療・介護・保健専門職：30名

実施場所：区役所会議室

②自主活動に新宿ごっくん体操を取り入れたい団体、組織の方

開催回数：各地区講習会 4か所 各1回

参加人数：20名×4回＝80名

実施場所：各地区の公的施設集会室

(4) モデル地域における取組支援

[開催内容]

①地域の担い手の育成（担い手候補、体操を覚えてほしい方など）

[開催回数] 新宿ごっくん体操講習会（2日間コース） 1回

[対象者] ・榎町地区、戸塚地区の地域団体・組織代表及び構成員

・榎町地区、戸塚地区で自主活動に体操を取り入れたい団体、組織の方等

[目標参加人数] 計30名

[内容] 2 日制 1 日目：知識+新宿ごっくん体操ポイントの理解  
2 日目：新宿ごっくん体操の実技と習得  
[実施場所] 榎町地域センター 4 階多目的ホール

## ②地域の担い手の自主活動支援

[開催回数] 出張講習会 8 回（体操定着支援）  
[対象者]・榎町地区、戸塚地区で自主活動に体操を取り入れた団体、組織の方  
・区民（団体からの声掛け）等  
[目標参加人数] 20 名×8 団体×各 1 回  
[内容] 体操講習、講話（セルフチェックなど）  
[実施場所] 日ごろの活動場所

## (5) 啓発活動を推進するためのツールの作成

区民への普及及び、地域の担い手の育成、自主活動支援のためのツール

[制作物]

- ・CD 1000 枚
- ・「ごっくんリーダー」手帖 500 部
- ・「ごっくんリーダー」証 1000 枚
- ・啓発用リーフレット等 500 部
- ・のぼり 4 枚
- ・開催お知らせリーフレット 1000 枚
- ・体操解説パンフレット増刷：4P 10,000 部
- ・リーフレット（歌詞+リーダー募集）増刷：10,000 枚

## 2 事業効果について

### (1) 事業効果・成果の指標について

- ①イベント、講習会参加人数目標：350 名
- ②ごっくんリーダー登録者数目標：100 名
- ③その他アウトカム指標の検討
  - ・満足度（講習会、体操）
  - ・体操継続状況の確認
  - ・当事者による口腔機能向上の確認（最長発声持続時間）
  - ・ごっくんリーダーへの関心度

### (2) 事業効果

区民や地域への効果

- ・摂食嚥下機能についての理解が深まり、機能を維持することの大切さを知る

- ・新宿ごっくん体操の効果を理解し、楽しく続けて機能を維持する
- ・地域の担い手となる人材・リーダーを通して、継続的に取り組める場が作られる
- ・周囲の気づきにつながる知識、予防策等が周知され、潜在的高リスク者が早期に発見される。

### 3 平成30年度 4月～6月の実施状況

#### 1 区民への普及啓発

##### 啓発イベントの開催

[開催日時] 6月20日(水) 14時～15時

[内 容] 楽しく知識や体操を身につける：講話、セルフチェック、体操、Q&A

[実施場所] 北新宿第二地域交流館

[成 果] 目標参加人数：20名

実績：22名参加（内ごっくんリーダー登録者2名）

継続取り組み拠点の確保：

- 1) 6月から既存の自主運営教室でごっくん体操を実施(週1、毎日の2教室)
- 2) 連続講座の新設準備開始

#### 2 普及啓発活動を推進する地域の担い手の育成

##### 医療・介護・保健専門職対象講習会の開催

[開催日時] 6月14日(水) 19時～21時

[内 容] 体操開発チームメンバーによる講演+新宿ごっくん体操講習

[実施場所] 新宿区役所第二分庁舎会議室

[成 果] 目標参加人数：30名

実績：専門職68名（内ごっくんリーダー登録者31名）

継続取り組み拠点として稼働開始、周知活動開始

#### 3 モデル地域における取組支援

##### ①地域の担い手の育成

[内 容] 新宿ごっくん体操講習会（2日間コース）

[開催日時] 5月28日(月)、6月4日(月) 13時30分～15時

[実施場所] 榎町地域センター 4階多目的ホール

[成 果] 目標参加人数：30名 実績：63名（内ごっくんリーダー登録者29名）

##### ②地域の担い手の自主活動支援

[内 容] 介護予防の会一二三（戸塚地区）

[開催日時] 4月26日(木) 11時～12時

[成 果] 目標参加人数：20名 実績：19名（内ごっくんリーダー登録者2名）

継続取り組み拠点として、5月から新宿ごっくん体操を週1回（毎木）実施

# 楽しく歌って、動かして、 食べる幸せいつまでも

新宿区では、「新宿ごっくん体操のうた」を作りました。  
みんなで、一緒に楽しく歌ったり、からだを動かして、食べる力を鍛えましょう。

## 「新宿ごっくん体操のうた」に隠された7つの秘密

- 1 旋律に合わせて丁寧に歌うと、のどを使う練習に
- 2 9文字の長いフレーズを歌って、痰を出す力の強化に
- 3 新宿の名所・旧跡の中でも、口の動きによい歌詞が満載
- 4 「パタカラ」の発音で、食べ物を送り込む力の維持・向上
- 5 肩甲骨をリラックスさせて姿勢が改善
- 6 胸郭のストレッチで肺活量がアップ
- 7 座って行っても、呼吸筋が強化



## 色とりどりの道 ～ 新宿ごっくん体操のうた ～

< 前奏 >

パッパッパッパッ パパ パッパパー  
パッ パパパ パーパッ パッパパー

1.

桜ひらひら うつる神田川  
緑きらきら 新宿御苑  
あなたの (あなたの) えがおが (えがおが)  
街のたからものさ  
色とりどりの道

2.

漱石山房 おとめ山公園  
文化ひろがる にぎわいの街  
かつやく (かつやく) かがやく (かがやく)  
街がたからものさ  
色とりどりの道

変わらない きらめき (変わらない きらめき)  
忘れない ときめき

< 間奏 >

ラーラーラーラーラー ラーラー  
(ハッ ハッ ウーアー)  
ラーラーラーラーラー ラーラー  
(ハッ ハッ ウーアー)  
パタカラ パタカラ パタカラ パタカラ  
パタカラ パタカラ パタカラ

3.

粋な街並み キラリ神楽坂  
鉄砲隊の 大久保つつじ  
なつかしい思い出 かがやき続けてる  
色とりどりの道 パッパッパッパッパッパッパ  
色とりどりの道

# みなさん、やってみましょう!!

## 歌うと口が元気になる

# 新宿ごっくん体操

### 1 そしゃく 咀嚼するために必要な筋肉を鍛える

#### 頬の運動

左右交互に頬を膨らませる

\* 膨らませていない方の頬は押し込む



前奏 パッパッパッパッ パパ パッパパー  
パッ パパパ パーパッ パッパパー

### 2 飲み込む時に使う筋肉をリラックスさせる 肩の上げ下げ運動

肩を上げて、力を抜いて落とす×4回



\* 首を前に出して肩をすくめない

1番 桜ひらひら うつる神田川  
2番 漱石山房 おとめ山公園  
3番 粹な街並み キラリ神楽坂

### 5 胸郭が大きく広がる

#### 胸郭、肩甲骨を大きく動かす運動

#### 深呼吸

手を組んで手のひらを返しなが  
腕を一度下に伸ばしてから上に上げる

ゆっくりリラックスし  
て、息を吐きながら  
腕を横から下ろす

\* 腕を上げるときは肩甲骨から動かすことが重要



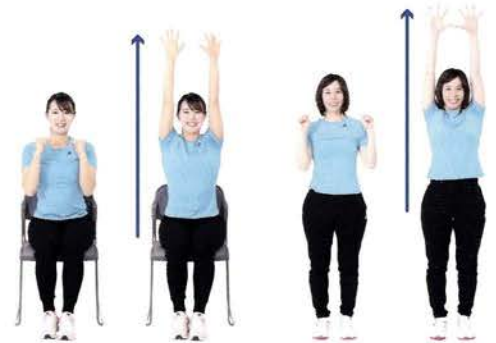
1番 2番 色とりどりの道

### 6 胸郭が広がる

#### カラダを伸ばす運動

腕を真上に上げる×2回

\* 空から腕を引っ張ってもらっているようなイメージで思い切ってカラダごと上に伸ばす



2番 変わらない きらめき

### 9 肋骨の間が開く 体幹の横ストレッチ

真横にカラダを曲げる 左右交互に4回

\* 前かがみにならないように、  
真横にしっかり曲げる



間奏

ラーラーラーラー ラーラー  
(ハッ ハッ ウーアー)  
ラーラーラーラー ラーラー  
(ハッ ハッ ウーアー)

### 10 口の動きが鍛えられる パタカラ体操

「パタカラ」と声を出しながら、グーパーして腕を前に出す×7回

\* はっきりと  
「パタカラ」と発音する



間奏

パタカラ パタカラ パタカラ パタカラ  
パタカラ パタカラ パタカラ

### 3 肩をリラックスさせる 肩を回す運動

前から後ろ、後ろから前と肩をまわす×2回



\* 腕だけをまわすのではなく、肩甲骨も一緒に動かすように大きくまわす

- 1番 緑きらきら 新宿御苑
- 2番 文化ひろがる にぎわいの街
- 3番 鉄砲隊の 大久保つつじ

### 4 誤嚥したものを吐き出す呼吸の力をつける 胸郭のストレッチ

上半身をひねる 左右×2回

\* 腰は正面を向いたまま、上半身をひねることがポイント



- 1番 あなたの(あなたの) えがおが(えがおが) 街のたからものさ
- 2番 かつやく(かつやく) かがやく(かがやく) 街がたからものさ
- 3番 なつかしい思い出 かがやき続ける

### 7 胸郭が広がる カラダを伸ばす運動

腕を右斜め、左斜めに上げる

\* 右に上げるときは、左の脇の下が伸びるように  
左に上げるときは、右の脇の下が伸びるように

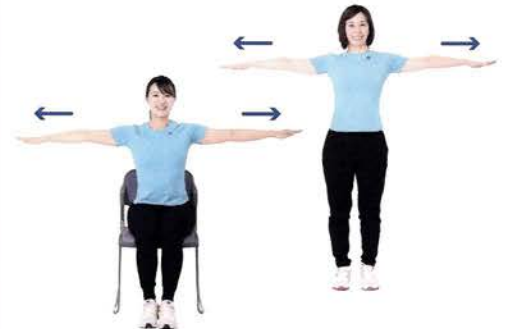


2番 (変わらない きらめき)

### 8 体幹の筋肉が鍛えられる 体幹の筋肉を鍛える運動

真横に腕を伸ばす×4回

\* 真横~やや後ろに向かって腕をしっかり出せるように



2番 忘れない ときめき

### 11 胸郭が大きく広がる 胸郭、肩甲骨を大きく動かす運動

手を組んで手のひらを返ししながら、腕を一度下に伸ばしてから上に上げる

### 呼吸が整う 深呼吸

ゆっくりリラックスして、息を吐きながら腕を横から下ろす



\* 大きく深呼吸

- 3番 色とりどりの道 パッパッパッパッパッパ
- 色とりどりの道

\*無理をせず、  
できる範囲で  
行うように  
してください。

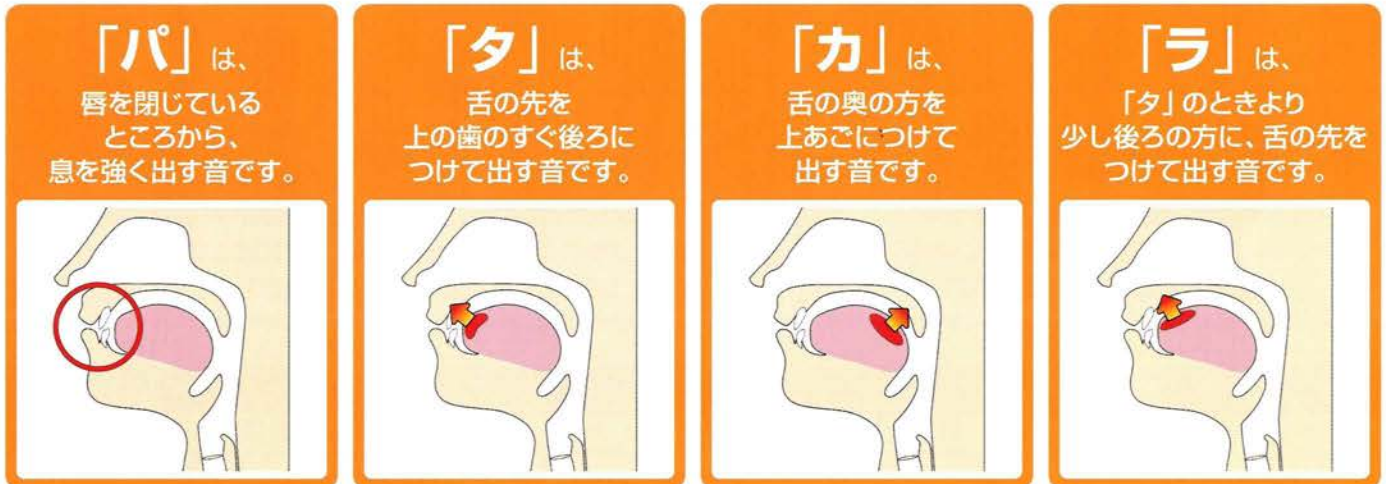


## 「パタカラ」の発音を多く取り入れた理由

口の体操では、よく「パタカラ」という発音を練習します。

飲み込むときには唇をしっかりと閉じて、あごを閉じて、そして、舌を上あごにしっかりとつけて、食べるものをうしろに送り込みます。

「パタカラ」を発音練習することは、この送り込みの力を維持することにつながります。



## 歌い方のポイント

### 1. 母音と子音を丁寧に、ハッキリ発音するようにしましょう

口の体操は「パタカラ」だけではありません。「い」や「え」のように口を横に広げたり、「う」や「お」のように唇を丸めて突き出す動きが大切です。そのため「色とりどりのみち」のように、交互に口を動かす言葉が重要なのです。

また、子音も大切で「さくらひらひら」、「うつるかんだがわ」のような歌詞を、舌をしっかりと使って丁寧に発音しましょう。

### 2. とぎれずに歌いましょう

言葉を切らずに続けて発音できるように、長く息を出す練習をすることが重要です。「街がたからものさ」のように9文字程度の長い言葉をたくさん取り入れて、一息できれいに歌う練習ができるように考えてあります。

長い言葉を歌うコツは、遠くの方の1カ所に声を届けるイメージで歌うことです。

楽曲提供：石川晃士郎（東京音楽大学）

監修・指導：国立国際医療研究センター病院 リハビリテーション科 診療医長 藤谷順子  
新宿区協働事業提案制度実施事業  
地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト  
体操開発チーム

協力：新宿区摂食嚥下機能支援検討会  
(座長 慶應義塾大学リハビリテーション医学教室教授 里宇明元)

企画・制作：新宿区健康部健康づくり課／特定非営利活動法人メディカルケア協会

問い合わせ先

新宿区健康部健康づくり課 新宿区新宿 5-18-21  
TEL (5273) 3494 / FAX (5273) 3930





# 楽しく歌って、動かして、食べる幸せいつまでも

## 「色とりどりの道」 ～新宿ごっくん体操のうた～

歌うと口が元気になる  
新宿区のオリジナルの歌と体操を作りました

### 「新宿ごっくん体操のうた」に隠された7つの秘密

- 1 旋律に合わせて丁寧に歌うと、のどを使う練習に
- 2 9文字の長いフレーズを歌って、痰を出す力の強化に
- 3 新宿の名所・旧跡の中でも、口の動きによい歌詞が満載
- 4 「パタカラ」の発音で、食べ物を送り込む力の維持・向上
- 5 肩甲骨をリラックスさせて姿勢が改善
- 6 胸郭のストレッチで肺活量がアップ
- 7 座って行っても、呼吸筋が強化

知らないうちに  
「食べること」  
「飲み込むこと」を  
トレーニング  
できます



## 色とりどりの道 ～新宿ごっくん体操のうた～

< 前奏 >

パッパッパッパッ パパ パッパパー  
パッ パパパ パーパッ パッパパー

1.

桜ひらひら うつる神田川  
緑きらきら 新宿御苑  
あなたの（あなたの）えがおが（えがおが）  
街のたからものさ  
色とりどりの道

2.

漱石山房 おとめ山公園  
文化ひろがる にぎわいの街  
かつやく（かつやく）かがやく（かがやく）  
街がたからものさ  
色とりどりの道

変わらない きらめき（変わらない きらめき）  
忘れない ときめき

< 間奏 >

ラーラーラーラーラー ラーラー  
（ハッ ハッ ウーアー）  
ラーラーラーラーラー ラーラー  
（ハッ ハッ ウーアー）  
パタカラ パタカラ パタカラ パタカラ  
パタカラ パタカラ パタカラ

3.

粹な街並み キラリ神楽坂  
鉄砲隊の 大久保つつじ  
なつかしい思い出 かがやき続けてる  
色とりどりの道 パッパッパッパッパッパッ  
色とりどりの道

## 食べる機能の衰えを“予防”しましょう

食べることは、日頃あまり意識せず、当たり前のように行っていますが、年齢を重ねていくと、手足の筋肉が衰えるのと同じように、食べる機能（摂食嚥下機能）も徐々に衰えていきます。特に、口や喉、胸の周りの筋肉をあまり使わなくなると、さらに食べる機能が弱くなったり、誤嚥した食べ物を吐き出しにくくなり、肺炎などを起こしやすくなります。

このたび、新宿区では、食べる機能の衰えを予防できるように、オリジナルの「新宿ごっくん体操」を作成しました。このうたと体操には、食べる機能の維持に効果のある言葉や動きがたくさん取り入れられています。

歌うだけでも、カラダを動かすだけでもよいので、日々の生活の中で楽しみながら実践していくことが大切です。

ぜひ皆さんで、このうたと体操を覚えて、いつでもどこでも行ってみてください。

## あなたも「ごっくんリーダー」になりませんか？

食べる機能を維持することの大切さを知り、「新宿ごっくん体操」を普及して下さる方を、「ごっくんリーダー」として募集しています。「ごっくんリーダー」には、特別な資格は必要ありません。区やメディカルケア協会が行う講習会に参加して、食べる機能の大切さを学んでいただき、活動しているグループなどご自身のまわりに普及していただける方なら誰でもリーダーになれます。

「ごっくんリーダー」に登録していただいた方には、専門家の丁寧な解説の付いた「色とりどりの道～新宿ごっくん体操のうた～」のDVDを進呈いたします。あなたのご参加をお待ちしています。

新宿ごっくん体操をグループの活動に取り入れたい方、ご関心のある方など、下記の問い合わせ先まで、お気軽にご連絡ください。

### <お問い合わせ先>

新宿区健康部健康づくり課 TEL (5273) 3494 / FAX (5273) 3930

特定非営利活動法人メディカルケア協会 [info@engechan.com](mailto:info@engechan.com)

### 色とりどりの道 ～新宿区ごっくん体操のうた～

- 楽曲提供 石川晃士郎（東京音楽大学）  
監修・指導 国立国際医療研究センター病院リハビリテーション科診療医長 藤谷順子  
新宿区協働事業提案制度実施事業  
地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト  
体操開発チーム
- 協力 新宿区摂食嚥下機能支援検討会  
（座長 慶應義塾大学リハビリテーション医学教室教授 里宇明元）
- 企画・制作 新宿区  
特定非営利活動法人メディカルケア協会

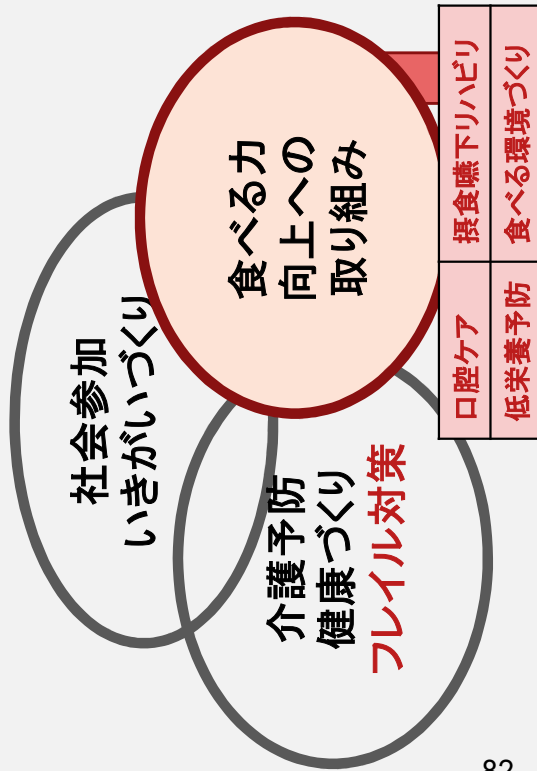


# 「地域の担い手「ごっくんリーダー」による 「食べる力」推進プロジェクト

平成29年度協働事業 事業報告会  
平成30年5月22日（火）14：00～14：20

特定非営利活動法人 メディカルケア協会  
小野有香里

# I メディカルケア協会の活動について



☆ 主な連携活動フィールド



## 高齢者支援活動

1996～	介護家族支援、家族の会開始
1999～	要支援・要介護者の居宅介護支援事業、ヘルパー養成、支え合い人材づくり
2002～	高齢者の介護予防、健康づくり開始
2011～	在宅要介護者の災害時支援体制づくり開始
2012～	孤立防止、いざという時頼りになる地域の絆づくり開始
2013～	社会参加を通じたいきがいづくり、健康づくりによる地域づくり開始

### 食べる力向上への取り組み

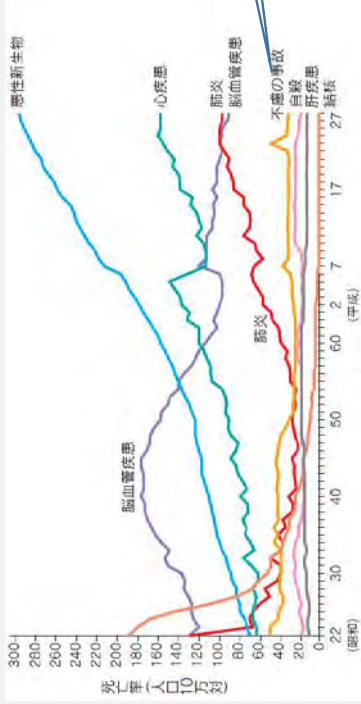
2015～	誤嚥ゼロのまちづくり活動開始～	8020財団、日本財団
2016～	食べる力向上支援活動開始～	厚生労働省 健康増進促進事業 厚生労働省 地域の健康増進活動支援事業
2017～ 2019	新宿区協働事業 「地域の担い手「ごっくんリーダー」による 「食べる力」推進プロジェクト」	
2018～	食べる力支援専用サイト「飲み込み110番」開設	<a href="https://engechan.com/">https://engechan.com/</a>

最近の主な学会発表	日本摂食嚥下リハビリテーション学会 日本リハビリテーション医学会、日本在宅医療学会学術集會等
-----------	---

主な連携先	新宿区摂食嚥下機能支援検討会、日本大学、東京音楽大学、東北大学、 神奈川県立保健福祉大学、山梨県学生ボランティアネットワーク等
-------	--

## II-1 事業の背景と必要性

加齢に伴い、手足の筋肉が衰えるのと同じように、食べる機能も徐々に衰えてきます



\* 肺炎は日本人の死亡原因第3位で、年々増加傾向  
肺炎死亡者の9割が65歳以上、その内の7割は飲みこみが原因による誤嚥性肺炎といわれている(平成27年人口動態統計/厚労省)

### 高齢者の食べる機能の変化と摂食嚥下障害



特に、口や喉、胸のまわりの筋肉をあまり使わないと・・・

- ☆ 食べる機能が弱くなる
- ☆ 誤嚥した食べ物を吐きだしにくくなり、肺炎など起こしやすくなる



食べる機能の衰えを予防し、兆候には早めに対応することが大切です

## Ⅱ-2 事業の目的と内容

各種調査による新宿区の課題

- ・「硬いものが食べにくい」は32.4%「食事中にむせる」は17.4%（新宿区調べ）
- ・介護予防教室は「口腔機能を向上させさせる教室」希望参加者が17.6%と低め（身体能力向上教室57.1%、認知症予防教室38.7%）（新宿区調べ）
- ・口腔機能の低下と、身体全体の機能の低下と関係を知らないが3割、60歳以上でごっくんチェック表に一つ以上〇している方が7割（当法人調べ）  
.....

- \* 食べる機能の衰えによる弊害への認識不足
- \* 食べる機能の衰えに気づかない、気づいてもそのまま
- \* 意識せず行える行為なので機能向上への意識が低い

### 区民に食べる機能の重要性を周知し、機能を維持していくことが必要

目的

- ◇ 食べる機能を鍛えることに日常的に取り組むことの大切さを区民に普及啓発すること
- ◇ 普及啓発の担い手となる地域人材・リーダーを育成し、皆で継続的に機能の維持向上に取り組める場作り
- ◇ 食べる機能維持向上、高リスク者の早期発見や周囲の気づきにつなげる知識、予防法等を普及啓発すること

内容

食べる機能の維持向上を楽しく続けていくためのツールの開発  
(新宿ごっくん体操、DVD、解説パンフレットなど)



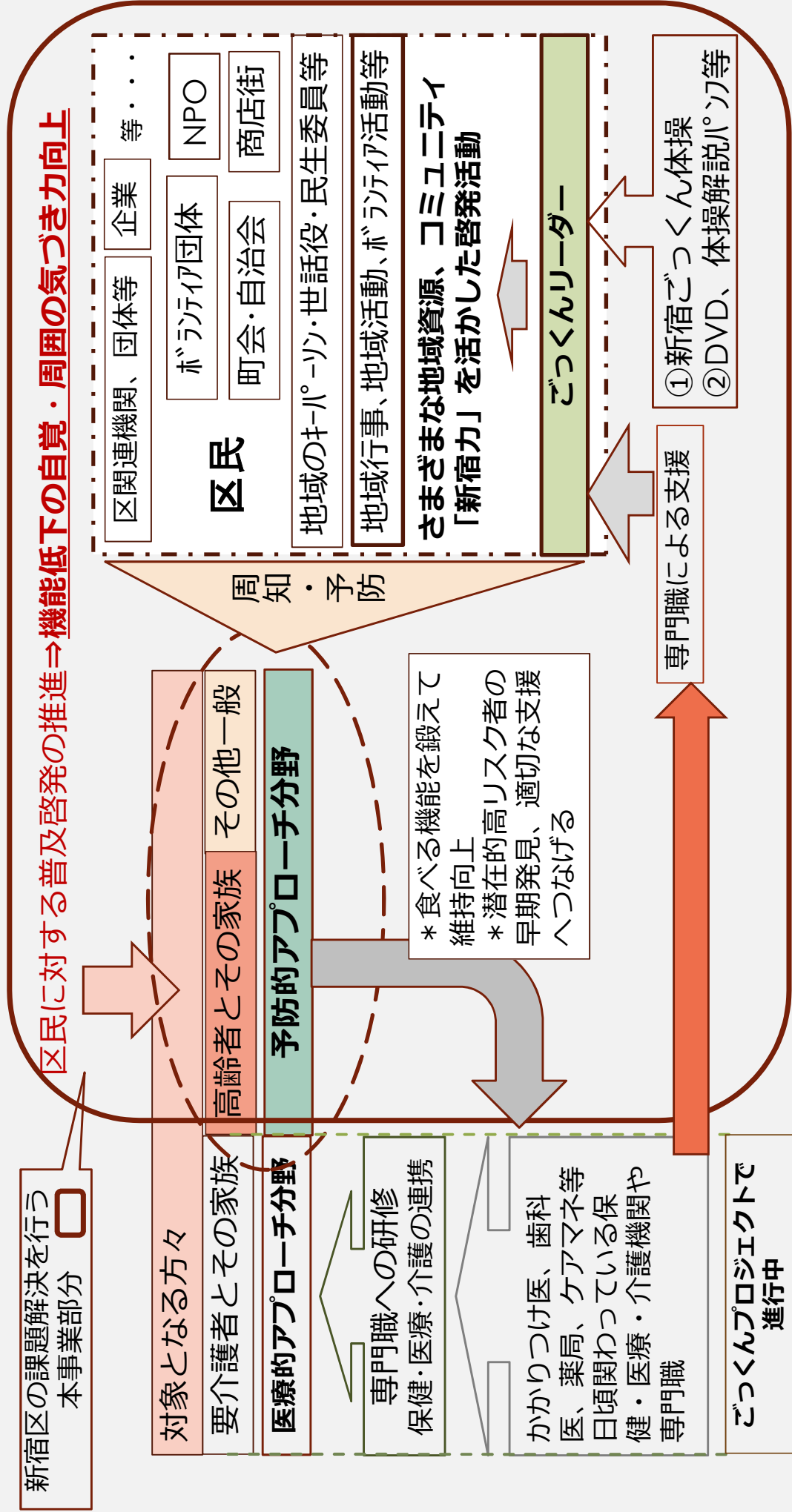
普及啓発活動を推進する担い手（ごっくんリーダー）の育成

\* 食べる機能の維持向上  
の大切さの周知

\* 区民自身が主体的かつ継続的に食べる機能を鍛えて、  
衰え予防

\* 潜在的な高リスク者の発見

### II-3 「新宿ごっこんプロジェクト」と本事業の関わり



## Ⅱ-4 地域の担い手「ごっくんリーダー」とは？

- 食べる機能を維持することの大切さを知り、「新宿ごっくん体操」を普及してくださる方を「ごっくんリーダー」として募集します。
- 「ごっくんリーダー」には、特別な資格はありません。
- 区やメデイカルケア協会が行う講習会に参加して、食べる機能の大切さを学んでいただき、活動しているグループなどご自身のまわりに普及していただける方なら誰でもリーダーになれます。
- 「ごっくんリーダー」に登録していただいた方には、専門家の丁寧な解説の付いた「色とりどりの道～新宿ごっくん体操のうた～」のDVDを進呈いたします。

新宿ごっくん体操講習会に参加

- \* 各地区ごとに講習会を実施  
→ 「食べる機能の維持向上の重要性」や「体操の効果」についての知識を学び、体操を習得できる

リーダー登録

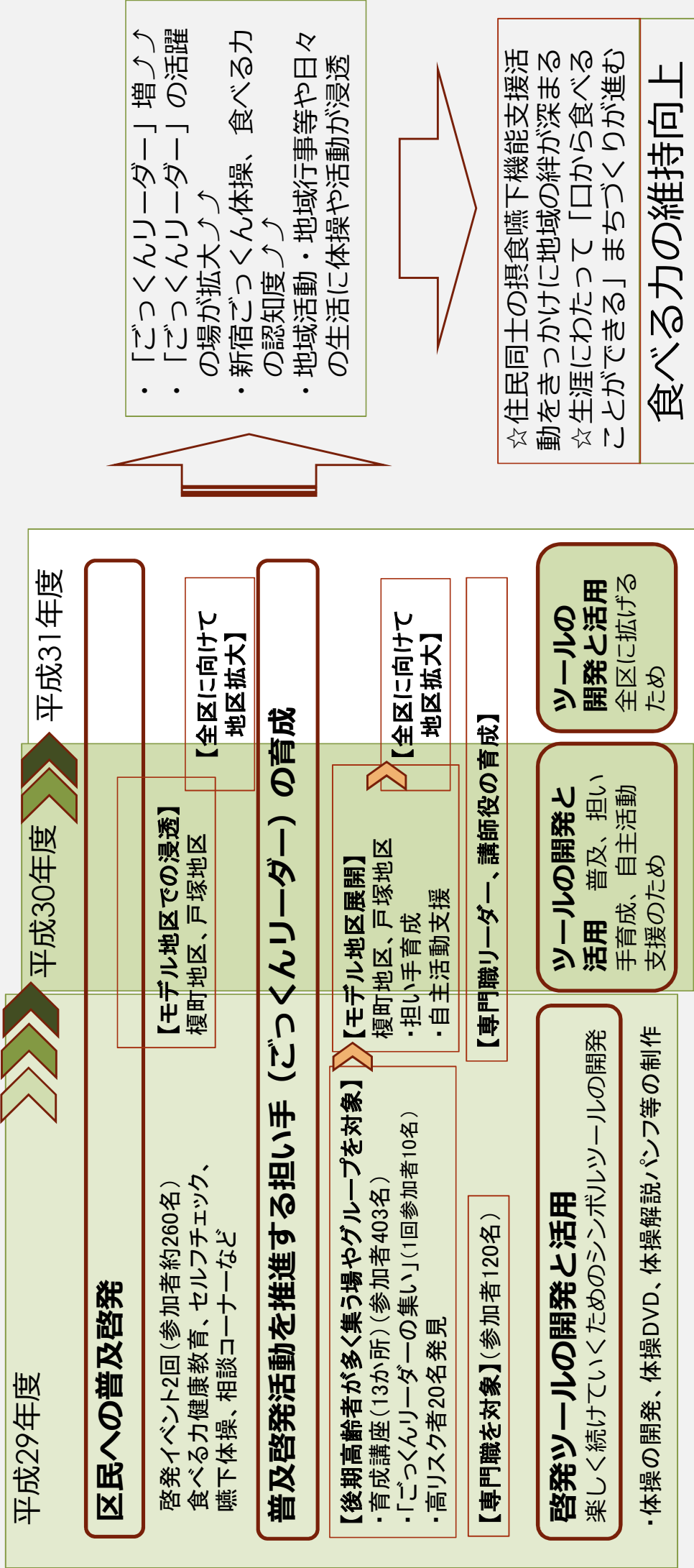
DVD進呈

地域の行事や  
日常的なグループの活動に  
体操を取り入れて  
みんなで楽しく続けよう♪

- \* 担い手の自主活動を支援する  
→ 自主的に定期的に継続して行える



## II-5 事業計画



### Ⅲ 平成29年度実績 区民への普及啓発

#### 啓発イベントの実施

(実績：2か所256名 目標：2か所200名)

#### ①日時：11/19(日)

場所：西早稲田地域交流館まつり

内容：講話（低栄養予防+食べる機能）+体操  
セルフチェック、生演奏会、Q&A

参加者：80名参加

広報：案内チラシ52か所配布500枚、区報掲載  
(目標50か所配布500枚)

協力者：ごっこリーダー5名  
(管理栄養士等専門職2名含む)

#### ②日時：3/3(土)

場所：なるなるフェスタ 摂食嚥下コーナー  
(四谷保健センター)

内容：新宿ごっこん体操の実践・紹介、展示  
相談、リーダー・取り組み団体勧誘

コーナー来場者：176名

協力者：ごっこリーダー5名  
(健康運動指導士、管理栄養士等専門職4名含む)

#### 参加者の声：

- ・むせても気にしていなかったが、重要性がよくわかった。体操を覚えて口やのどを鍛えていきたい。
- ・訓練だと続けられないが、この体操なら楽しいので続けられそう。覚えて続けたい。

①西早稲田地域交流館まつりにて



②なるなるフェスタにて



### Ⅲ 平成29年度実績 普及啓発活動を推進する担い手（ごっこんリーダー）の育成

- ① 仕組みづくり(モデル地域選定のための情報収集、地域関係者・区等との調整、地域への入り口探し、地域キーパーソン・担い手候補発掘等)
- ② 担い手の募集(既存の地域団体や活動との連携による普及啓発講座を通じた呼び掛け)
  - ・地域活動の参加者、ボランティアスタッフ (実績:13か所403名 目標:6か所180名)
  - ・医療・介護専門職(摂食嚥下研修会120名)
- ③ 学習会の開催:2/9「ごっこんリーダーの集い」の開催(事業の趣旨説明、交流、知識や技術習得等を目的とした学習会)
  - (実績:次年度実施するモデル地域のキーパーソン10名 目標:10名)
- ④ 自主活動支援:活躍の場づくり(啓発イベントへの協力、地域への普及啓発活動等)



#### 参加者の声：

- ・食べる機能が衰えることを知らなかったが、わかりやすくお話し頂き、大変ためになった。周りの方に伝えます。
- ・会食会で早速、体操を取り入れたいと思います。
- ・うちのグループにも是非来てほしい。
- ・ごっこんリーダーに関心がある。自分のためにもなるし、人の役に立てれば嬉しい。できることは手伝います。

協力者：医師、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士、保健師、看護師、管理栄養士、薬剤師、ケアマネジャー、健康運動指導士、ごっこんリーダー、地域のみなさま（会食会、高齢者サロン、老人クラブ、シニアの会等）

### Ⅲ 平成29年度実績

### 楽しく続けていくための啓発ツールの開発と活用

- ①ツールの開発(目標:2月までに完成:クリア)  
 ・体操の開発(コンセプト、楽曲、振り付け)  
 体操開発チームメンバー9名:リハビリ医、歯科医、ST、歯科衛生士、東京音楽大学:会議4回  
 ・撮影2日(体操動画・写真撮影、解説動画)  
 ・ヒヤリング2回(地域の方々、医療介護専門職)  
 ・DVD、解説動画、解説パンフの作成

### ②ツールの活用

- (実績:4か所356名 目標:2か所300名)  
 2/26摂食嚥下機能研修会、3/3なるなるフェスタ、  
 3/10西戸山生涯学習館弥生祭り、3/17みるみる会



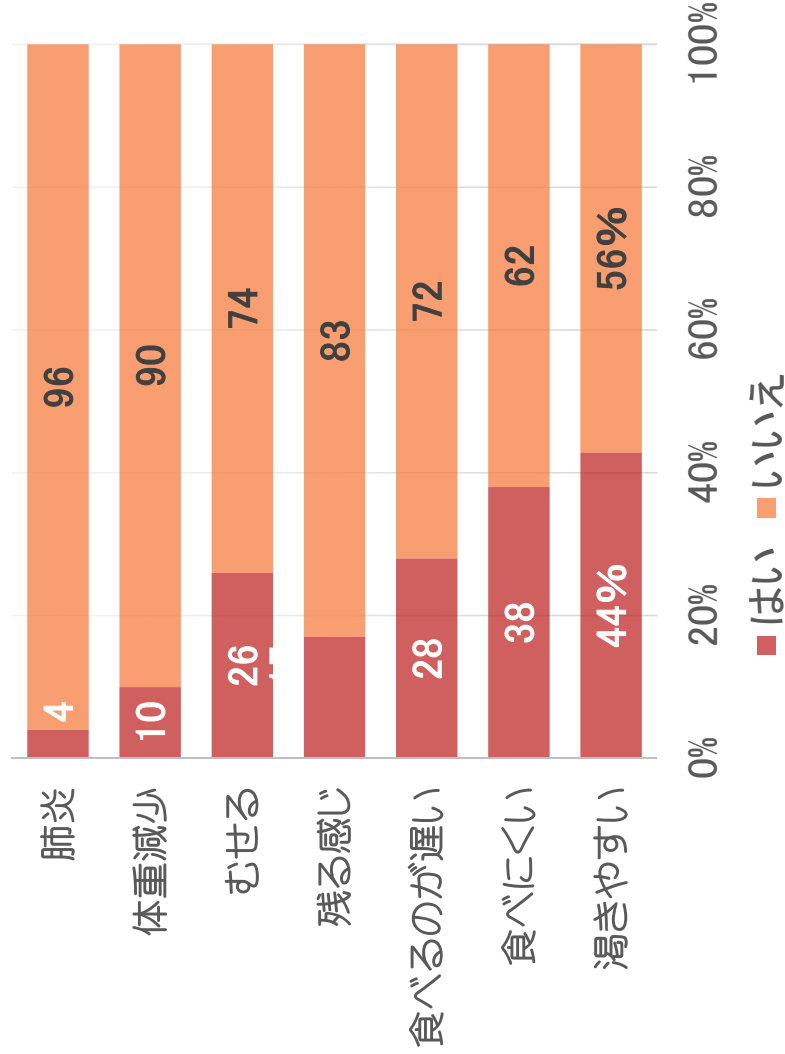
#### 新宿ごっくん体操に対するヒヤリングの声:

- ・とても良い曲、一度聞くと耳に残る。新宿の名所や旧跡が歌詞に入っていて親しみがあり、覚えやすい。テンポもリズムもちょうどよい。
- ・歌うだけでも体操の効果があるのが素晴らしい。どこでもできるし良いと思います。教えて頂いたように丁寧にしっかりと歌って鍛えます。
- ・初めてでも簡単にできていたので、楽しくできました。

### Ⅲ 平成29年度実績 アンケート結果(抜粋)

#### ごっくんチェック表による自覚症状 (60歳以上自立)

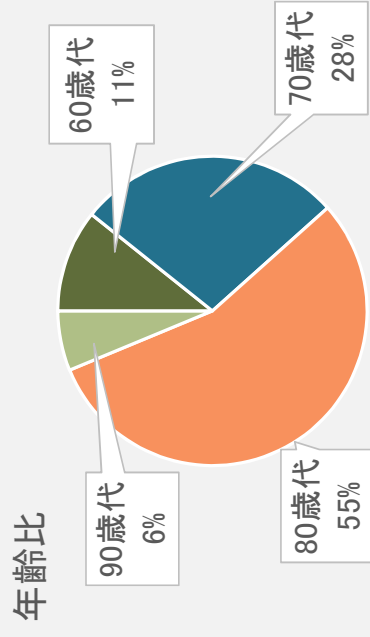
##### 7割の方が一つ以上にチェック



○がひとつでもあれば、摂食嚥下障害を疑って相談しましょう。

##### 「ごっくんチェック表」の項目

- \* 1年以内に肺炎と診断されたことがある
- \* 6カ月間で2～3kg以上の体重の減少があった
- \* お茶や汁物等でむせることがある
- \* のどに食べ物が残る感じがする
- \* 食べるのが遅くなった
- \* 半年前に比べて硬いものが食べにくい
- \* 口の渇きが気になる



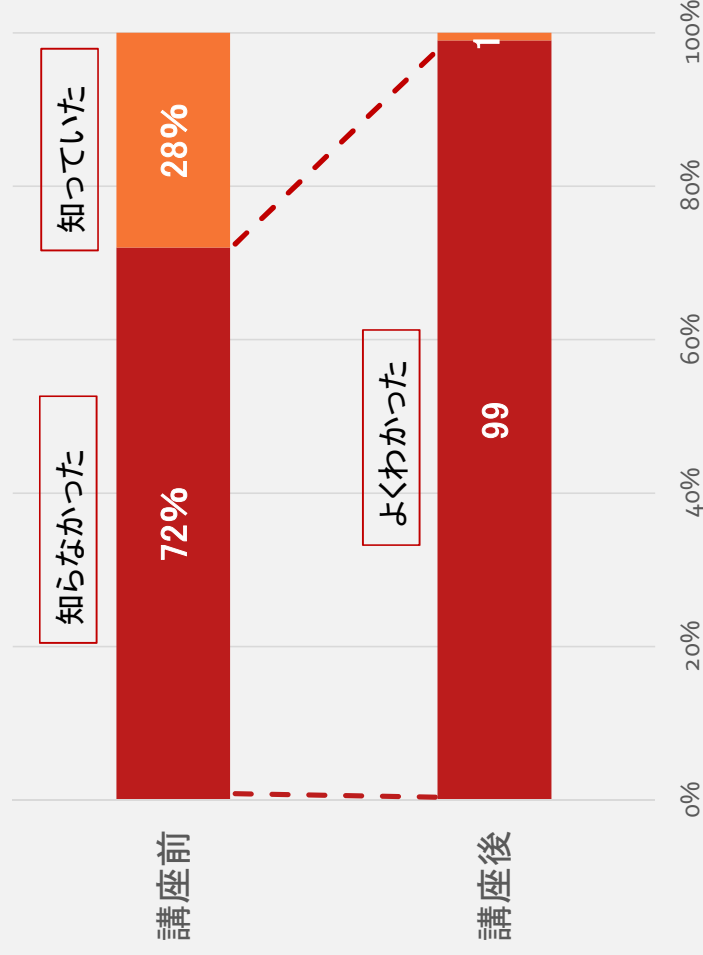
参加者へのアンケート結果より抜粋

有効アンケート数253名、60歳以上の回答者183名  
(アンケート回収率93%)

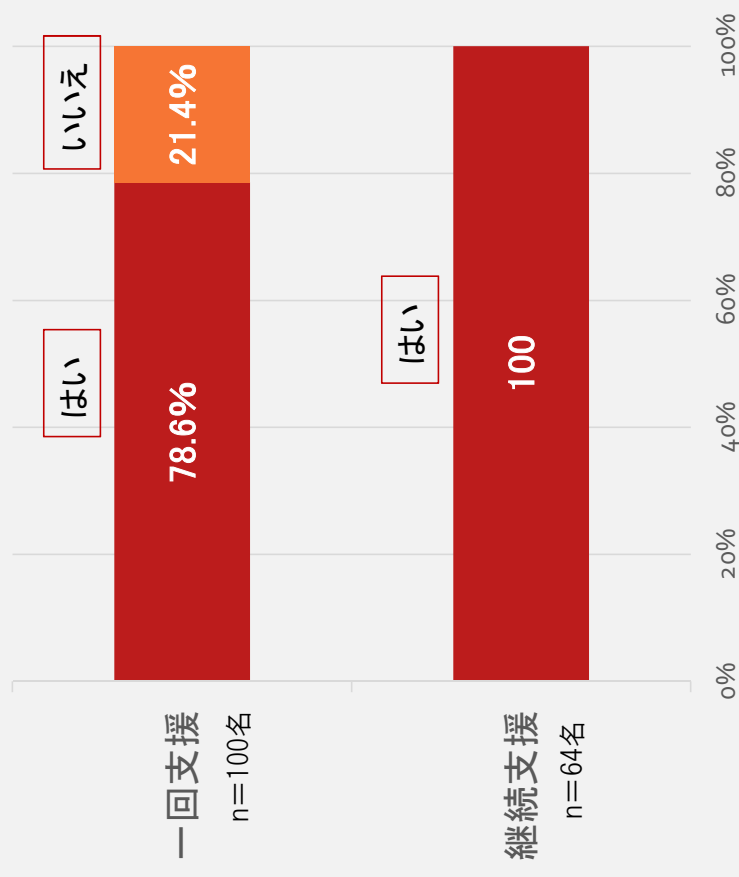
## 啓発活動による変化

\* 食べる機能と全身機能との関係性の周知

n=98名



\* 誤嚥予防に気をつけるようになりましたか？  
～継続支援グループの変化～  
(講座実施後1～3か月後に調査)



参加者へのアンケート結果より抜粋

色とりどりの道～新宿ごっくん体操のうた～ DVD



平成30年度 新宿区協働事業評価報告書（実施2・3年目）

平成30年9月発行

印刷物作成番号  
2018-13-2601

編集・発行 新宿区地域振興部地域コミュニティ課管理係  
東京都新宿区歌舞伎町一丁目4番1号  
電話 03-5273-3872

この冊子は、森林資源の保護とリサイクルの促進のため、  
古紙を利用した再生紙を使用しています。